

令和6年 第8回
教育委員会定例会会議録

令和6年8月5日（月）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2640号
令和6年第8回定例会

日 時 令和6年8月5日（月） 午前10時00分 開会

場 所 港区役所9階 大会議室

「出席者」	教 育 長	浦 田 幹 男
	教育長職務代理者	田 谷 克 裕
	委 員	鈴 木 令 奈
	委 員	山 内 慶 太
	委 員	中 村 博

「説明のため出席した事務局職員」	教 育 推 進 部 長	山 本 睦 美
	学 校 教 育 部 長	吉 野 達 雄
	教 育 長 室 長	野 上 宏
	生涯学習スポーツ振興課長	中 林 淳 一
	図書文化財課長	齊 藤 和 彦
	学 務 課 長	鈴 木 建
	学校施設担当課長	井 谷 啓 人
	教育人事企画課長	大久保 和 彦
	教育指導担当課長	清 水 浩 和

「書 記」	教 育 総 務 係 長	若 木 康 治
	教 育 総 務 係	畝 目 雄 太

「議題等」

日程第1 審議事項

- 1 令和7年度使用中学校教科書の採択について
- 2 令和7年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について
- 3 令和7年度区立中学校特別支援学級で使用する教科等図書（一般図書）の採択について

「開会」

○教育長 ただいまから、令和6年第8回港区教育委員会定例会を開会します。

会議に先立ちまして、皆様をお願い申し上げます。

事前にお配りしました資料の「注意事項」をお読みにになり、会議においては、発言などなさいませんよう、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

傍聴の方から、写真撮影、動画撮影及び録音の申出がありましたので、港区教育委員会傍聴人規則第4条に基づき、許可いたします。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○教育長 日程に入ります。本日の署名委員は、中村委員にお願いします。

日程第1 審議事項

1 令和7年度使用中学校教科書の採択について

○教育長 日程第1「審議事項」に入ります。議案第54号「令和7年度使用中学校教科書の採択について」審議を行います。

それでは、最初に国語の教科書についてご意見を伺います。現行の学習指導要領から、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成すること」を目標に、語彙指導や、情報の扱い方に関する指導、学習過程の明確化、「考えの形成」の重視、言語文化に関する指導や読書指導の充実などの点で、学習内容の改善・充実を図っています。その傾向を踏まえ、ご意見はございますでしょうか。

○田谷委員 どの教科書も学習指導要領の項目を受けた工夫をしていると思います。読むことについては、文学的な文章と説明的な文章、俳句などの作品数が多いのは東京書籍。それから書くことについては、単元を多く取り上げているのは三省堂と光村図書ではないかと思っております。

また、話すこと、聞くことでは、教材の数では光村図書が他の教科書に比べても充実しているところだと思います。

○教育長 ありがとうございます。

田谷委員からただいま、各社がどの領域に力を入れているかという視点からご意見を頂きましたが、そのほか、いかがでしょうか。

○山内委員

国語の教科は、文学としての国語、あるいは古典としての国語ということだけではなくて、論理的な読解力、記述力をつける、あるいは論理的な思考力の基礎になる言葉の力をつけるという意味でも重要です、またその役割が近年強く求められているところであります。

そういう観点から見ると、例えば東京書籍は1年生の教科書の中でも、「情報と論理の学び」とし

て、情報の分類・比較、意見と根拠、それから原因と結果というようなテーマについて取り上げるということがなされて、段階的に論理的な思考力や論理的な言葉の力をつけるというところの工夫があるように思います。

実は他の出版社もそういう工夫はありまして、光村図書も、「情報整理のレッスン」あるいは「思考のレッスン」というような同様のタイトルをつけています。そういう点ではそれぞれ工夫がされている教科書で好ましいように思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、山内委員からのお話にもありましたが、私も、国語の教科書に関しましては論理的思考力を高めていくということが中学校段階における教育については非常に必要だと考えております。現代ではパソコンとかタブレット、それから携帯電話というものが非常に普及しております。そういう機械で文字を入れ込むということには慣れていると思うのですが、なかなか自分の目で文章を見て自分で推敲をするというような機会が減ってきております。そういった観点で見ると、どこの出版社も各学年の巻末に原稿用紙の使い方に関する部分を載せておりまして、その辺は非常に好感が持てました。

なお、教育出版社の1年生の教科書とか光村図書の1年生の教科書には、根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書きましょうという単元が設けられていて、非常に重要な指摘だというふうに考えました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

論理的思考力以外の観点では、いかがでしょうか。

○鈴木委員 読書指導の充実については、現在も学校で読書活動など様々な取組が行われていると思いますが、今回、どの教科書も読書活動に関して力を入れているかなと思っております。主な教材とは別に、読書の紹介、そういった欄がございまして、分かりやすく編集されているのではないかなと思います。紹介する教材が多いと思う点では、三省堂が充実しているように感じております。例えば1年生の教科書の244ページでは、「読書の広場」「小さな図書館」という形で紹介をされていて、著名人のお薦めの本が紹介されているコーナーもありますので、子どもたちが読書に興味を持てるような工夫がされていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

委員の皆様からそれぞれの視点でご意見を頂きました。それぞれの教科書の特徴として際立つ点について、さらにご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 選定資料にもございますが、光村図書は「語彙ブック」というコーナーが設けられております。語彙を広げられるようになっております。この資料については、どの教科書でも取り上げているところではありますが、言葉の学習という意味では、東京書籍が「日本語探検」というコーナーを設けて、着目する問題が設定されております。こういう指導というのは今後も非常に大切

な部分だと思しますので、着目したいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 学習指導要領の改訂の要点の一つとして、古典の指導を重視するということが挙げられております。そういう観点から見ますと、三省堂の1年生の教科書の中に『竹取物語』という教材があります。登場人物の相互関係とか、あるいは心情の変化、こういうものについて描写を基に捉えることができるよう、絵巻物を見開きで掲載するなどの視覚的な工夫がなされているように感じました。

それから古典という観点から見ますと、光村図書の方も、1年生の教科書の中に「古典の世界」という教材を入れておまして、年表を基にして古典の歴史をたどるとともに、古文の言葉の響きとかというようなものに慣れ親しむという工夫がなされておりました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 光村図書では教材の中で、学習の道筋を端的にまとめている「学びへの扉」があることによって、生徒はどのように読み深めていけばよいのかということを知った上で、より深く読み進められるように工夫されていると思います。さらに、読み深めたことを基に自分の考えをまとめていくという流れになっているのではないかなと思います。また、生徒が主体的に学習を進めて、自分の考えを形成していくということもできるようになっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 今の点について言えば、何を中心にどういう流れで学ぶかということの解説は、東京書籍も同じようにそれぞれの題材、読み物の後に「てびき」というものがあって、そこで何について、何に着目して、どういう流れで読んでいくかということ、あるいはどういうことを検討していくかということが書かれている。光村図書の「学びへの扉」と同じように学習の流れをくみ取ることができるというふうに思います。

一方で、一つの題材についての使い方、何をどう捉えてどのように読み深めてどういう考えを持つかというのをここまで明記していることというのは、逆に教員の主体性をなくす可能性もあって、そこが課題ではないか。つまり、若手の経験のない教員であれば、これに沿って授業をする。そういうしやすさはあるんですが、逆に教員の主体性が弱まる、そうすると教員の力が落ちていく。そこをどう自覚しながら活用するかということが課題なのかなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今、山内委員も言われましたが、学習の進め方という視点では、これも大切なことだと思いますが、教育出版もいいようですね。単元の最初に見開き2ページで「学びナビ」が設けら

れていて、どのように読み進めればよいのか、読み深めればよいのかということが示されています。見通しを持って学習に取り組めるという点では大変よいのではないかと思います。

主体的な学びや発展的な学習に活用できるデジタルコンテンツを各社取り扱っています。その中でも光村図書の二次元コードは、それぞれに漢字一覧表、「学びの地図」など、二次元コードの説明が掲載されております。このように自学・自習に活用できるデジタルコンテンツは重要な要素ではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかの視点でのご意見等はございますでしょうか。

○中村委員 国語は、文字を読むことが主な学習活動になると思いますので、やはり読みやすさという観点から各社の教科書を見てみました。どの教科書も、学年とか題材、教材の内容に応じたフォントを使用していて、そういう意味では工夫は各社見られると思うのですが、特に東京書籍とか教育出版の教科書を見ますと、カラーユニバーサルデザインが施されておりまして、文とイラスト、それから図表、そういうものの重なりに留意していることがよく分かります。色覚障害のある生徒や読み障害のある生徒には非常に配慮されている教科書のように感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今のお話にも出ましたが、発達障害のある生徒は様々な情報から必要な情報を選択して認識するというところに困難さを抱えていることがあります。このような生徒には、掲載された情報がすっきりと整理された紙面がよいと思います。そのような点から申し上げますと、三省堂は単元末に示されている学習の進め方が見開き2ページで把握できるように、「学びの道しるべ」にまとめられています。また、紙面の上段と下段で取り上げる内容を統一し、どこを見れば自分の必要としている情報が手に入れられるのかが分かるようになっています。これは同様に、東京書籍も上段と下段で情報を整理した上で、上段と下段を分ける区分線を入れるなど、紙面の向上を図っていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 国語において書くことは、自分の思いや考えを表現するという点からも大切になると思っております。書くことの学習という意味ではどの教科書も工夫していると思いました。光村図書は、書くことに関する教材が非常に多く、特に実用的な文章も多く書く活動が取り上げられていると思います。書くことには、情報を集めて、自分の考えや主張を伝える上で必要となってくる情報を精査して、効果的に表現するための構成を考えていくことが大切だと思います。東京書籍、それから三省堂は様々な文章の構成や書き方のポイントといったところを一覧表でまとめてありまして、活用しやすいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。

○山内委員 今回の、書くことというときに、まず自分の考えを整理する、あるいは人の意見との違いを整理するというようなことが必要で、そのためには近年では思考ツール、論理ツールと言われているかもしれませんが、そういうものを使いながら自分の考えを可視化していくということが重要になる。このいわゆる思考ツールというものについても、各社、よく探すと取り上げられてはいますが、光村図書は各学年とも最初に「思考の地図」というタイトルで、まず目立つ形で挟み込んであります。そういう点ではよいと思います。今後ますますグローバルな社会で異なる価値観の人たちと議論をするときに、そういう思考を可視化する努力をするということは必要になると思います。

ただ一方で、どの出版社もそうですが、先程申し上げたような、取り上げた文芸作品については、どの授業でそれを扱うかということについて実におせっかいぐらい詳しく書いてある訳ですけども、こういう思考ツールの活用の仕方、あるいはそれがどういうことから出来上がっていったものなのかということの説明は、どの出版社も物足りないところがあります。そういうところは、逆にこれから活用する先生の腕の見せどころというふうに思いながら見ました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 論理的思考を育む、そういう意味で言いますと、三省堂もよいかと思います。「思考の方法」を九つ挙げていて、生徒が思考ツールを選択しながら学習を進められるよう工夫しております。どのような場面で思考ツールを活用すればいいのかが分かりやすくまとめられていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 別に国語に限った訳ではないと思うのですが、教科書を採用するには、やはりその区域で特徴的な教育指導をしているというようなところがある程度あると思いますので、そういう観点から港区の場合を考えてみますと、港区の小中学校では俳句とか詩歌を実際に子どもたちにつくらせています。それを基にした教育を行っているというところに特徴があります。そういう点で見えますと、やはり俳句とか詩歌づくりをするに当たってどの教科書がよいかという観点から見ると、光村図書は他の出版社に比べて参考となる多くの作品が収容されておりまして、詩歌や俳句、こういうものをつくるに当たって非常に参考になるなと思っております。

あと気になったのは、教育出版社は詩を取り扱う際に、小学校の子どもにもなじみがある金子みすゞさんによる詩が掲載されておりまして、生徒が親しみを持って創作活動に取り組めるというところに工夫がしてあるなと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございました。

それぞれ委員の皆様から、論理的思考力の視点、読書活動の視点、語彙指導の視点、古典文学の視点、デジタルコンテンツ活用の視点、題材の内容や数、読みやすさ、港区における俳句、詩歌の指導の実態などの観点からご意見を頂きました。これまでのご意見から光村図書を推薦する声が多

いようにと思いますが、国語につきましては光村図書でいかがでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ありがとうございます。ご異議がないようですので、国語の教科書につきましては光村図書に決定をいたします。

続きまして、書写の教科書について皆様のご意見を伺いたいと思います。

○田谷委員 書写におきまして、どの教科書も学習指導要領に示された伝統的な文字文化の継承、社会に役立つ様々な文字文化等の内容を取り上げて、系統的に示していると思います。

東京書籍はほかの出版社と比べ、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れている項目が多いです。具体的には、72ページから、学校生活における文字の工夫や身の回りにある文字の工夫が紹介されています。共通項を考える学習を取り上げています。

光村図書では96、97ページに、目的に応じて文字を使い分ける必要があることに気づかせる学習が織り込まれております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 行書を指導する際のポイントという観点から見ますと、点画のつながりを意味する筆脈を重視した構成になっているのが東京書籍なのかなという感じです。基本の形となる行書の形を学んだ後、その基本の形が構成要素に入っている漢字をさらに書かせる、応用させる、そういう学習の流れになっております。また、書写する際のポイントが、「書写のかぎ」として示されておりますので、指導する側から見て非常に使いやすいし、かつ生徒の側から見ても、何に注目して書けばいいのか生徒自身で確認できるようになっているところがいいなと感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 別の出版社で言うと、例えば三省堂は、硬筆で行書を練習できるページが多かったり、あるいは硬筆の練習の中で、バランスの取れていない文字をバランスの取れた文字にどう改めるかというようなこと、要はバランスの取れた文字をどうやって書いていくかということに力が注がれているような印象があります。ただ、現実にはそれだけで十分かということもあります。私自身は書写の授業というのはそれ以上、日本の古典とか、あるいは文字の文化、そこに触れる良い機会であって、古典に親しむという意味で大きな意味があるのではないかと思います。そういう意味では、逆にそういう書き方に力を入れている三省堂の教科書などは物足りなさを感じる。できるだけ古典に親しむ機会になる題材が多い教科書がいいのではないかというふうに思いながら読み進めていました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○鈴木委員 教育出版は、観賞用の写真が非常に豊富ではないかなと思います。特に88ページ、89ページには、日本建築と書の関係を取り上げられていて、和室の床の間に飾られた掛け軸です。

とか、びょうぶ、扁額などから、日常生活と芸術鑑賞の見事な調和ですね、そういったことを気づかされるような形になっているのではないかなと思います。これは高等学校の書道1で扱われる学習内容につながりを持った発展的な学習になっていると思います。学習指導要領の改訂では学習の系統性が重視されているので、このような内容が示されているというのは非常によいことではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、鈴木委員の方からのご意見の視点で考えてみた場合に、私は東京書籍の34ページから35ページに出ている、文字の移り変わりというところが非常にいいなと思いました。いわゆる篆書から隸書、草書、行書、そして楷書と、こういうふうにして文字が移り変わってきたというところが非常に分かりやすくまとめられておりまして、かつ各コーナーで身の回りにあるものを中国の文字を使って書いていたりして、非常に文字に関して興味・関心が高まるような構成になっております。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

○田谷委員 光村図書についてなのですが、教科書と「書写ブック」の2冊の仕立てになっています。教科書で学んだ文字の整え方を書写ブックの硬筆練習に取り組み、毛筆での学習を硬筆で定着することができるように工夫されていると思います。毛筆では、始筆、送筆、終筆のリズムをオノマトペで表現したり、線の太さを筆圧で調整することが分かりやすいように、筆圧を基本的に表現したりしていて、やはり現場で学ぶ生徒が毛筆に対する感覚をつかみやすいように工夫されていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 文字を日常生活に生かすという観点から、各社、日常に役立つ書式を資料として掲載して、活用できるようにされているかなと思います。例えば手紙や封筒の書き方ですとか、入学願書。そういった様々な日常生活で使用する書式について取り上げられておりまして、書字する際のポイントについて具体的に示しているかと思います。特に東京書籍、光村図書、教育出版では、今、皆さんがよく使われている電子メールの書き方についての取り上げを行っておりまして、現在の通信ツールとしては非常に意識してもいいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

各教科書の特徴について皆様からお寄せいただきましたが、それ以外のご意見はございますでしょうか。

○山内委員 今のような視点も重要になってきますけれども、他方で、書写とは何ぞやというときに、どこまで電子メールとかワープロで書くものを書写の授業でやるのだろうかというようなところになってきています。これからの書写の在り方というものが問われる中での過渡期の教科書かも

しれないですが、東京書籍は比較的バランスよく書かれている印象もあります。先程申した書体のことも書かれている。それから、文字の移り変わり、文字の文化が時代によってどう変わってきたかを読むこともできる。そういう意味では比較的バランスが取れているのかなという印象を持っています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 また、忘れてならないこととして、書写の姿勢というものがあると思います。各社ともに、姿勢と用具の使い方をしっかり指導しようという思いが伝わってきております。その中でも光村図書は、タブレットを使う姿勢を掲載しており、ふだんの学習においても意識できるような工夫を採っています。

国語の採択の際にも話題に上がった文章の件については、説明のページもあります。こういった工夫は東京書籍にも見られます。東京書籍は、推敲するときに便利な記号を色分けしながら分かりやすくまとめているところがよいかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

それでは、事務局に確認なのですが、国語と書写は教科書会社が違ってもよろしいでしょうか。

○教育指導担当課長 教科書につきましては、国語と書写で変わっても問題はありません。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、今までの皆さんからの意見でございますと、書写の授業の限られた時間数の中で取り扱っている内容や生徒にとっての分かりやすさ、文字を日常生活に生かすという視点からのご意見がありました。その中で、東京書籍を推薦する声が多かったように思いますが、書写の教科書につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、書写の教科書につきましては東京書籍に決定をいたしました。

それでは続いて、社会（地理）の教科書についてご意見を賜りたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 学習指導要領におきましては、地理的分野の目標として、地域調査など具体的な活動を通して地理的事象に対する関心を深めるということがうたわれております。様々な資料を適切に選択・活用することが挙げられています。また、地理的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する能力や態度を育てることが示してあり、教科書を採択する上で重要な視点であると考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 地理の学習では、世界と日本を眺め、持続可能な地理を考えるとともに、地理的な見方、考え方を働かせながら学習を進めていくということが大切だと思います。地図を読み取って、読み取ったことを基に話し合ったり、背景を考えたりする活動というのを充実させることというのが、思考力、判断力、表現力などの基礎と基盤となる、そういった現場力の育成につながると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、鈴木委員が言われた視点で考えると、子どもたちが教科書をどのように活用し、そして自ら進んでいかに主体的に学ぶことができるかというような教科書であることが大切かなと思います。学習の狙いや、あるいは設定、そういうようなものが子どもたちにとって分かりやすくなっているか、あるいは教員の側から問題解決的な授業の展開をしやすいものはどれなのか、そういう観点から見ていくべきではないかと思います。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま御三方から頂いた視点を踏まえまして、ご意見を伺いたいと思います。

○山内委員 そういう中では、それぞれの地域、あるいは地域と地域の関係を見るときに、統計資料であったり様々な種類の地図、あるいは写真等々の情報をどう活用するかということが求められている。各社、比較的工夫をしながら、教科書の中にそれらが入ってきていると思いますが、加えてそういうものをどう活用するかというところでの示唆をどう教科書の中に盛り込むかということも必要になります。その様々な資料である地図、あるいは地図にしても今の地図と昔の地図、それから地形、統計資料、それをどう面白がれるか、分析できるかということですね。その誘導が重要になる訳です。

その点では、例えば帝国書院は、「技能をみがく」というコーナーが充実していて、それぞれについて具体的な活動を示しています。それから、同様のコーナーが例えば東京書籍は「スキル・アップ」というコーナーで用意されていますし、日本文教出版も「スキル・アップ」、あるいは教育出版は、「地理の技」というコーナーで比較的丁寧に、限られた紙面の中では解説されているかなと思います。

もう一つ、問題解決につながる授業をするという点では、どの教科書も巻末にその地域の課題について、課題を立てて調査をして分析をするという取組が一つの章として説明されているというのも今回の教科書の特色だろうというふうに思います。

その中で各社をあえて比較すれば、帝国書院は神戸を取り上げていますが、神戸市の中でも実は地域によって人口分布や老年人口割合などが異なってくる。地域の中でも、同じ市内でも場所によって課題が違うのだということを地図のグラフで可視化しているというようなところ。こういうのはすぐれた視点だと思います。どの地域を見ても、その中は均質ではなくて、さらに多様で、その課題を見ていかないといけない。それをデータで可視化することで、よりその多様性が見えてくる。均質でないという状況が見えてくる。そういう題材を使っているというのはいい工夫だと思います。

ます。実はほかの社は、ある地域を選んでいても、その地域の中の多様さ、均質ではない状況まで分析がいくような教材にはなっていないというのが、他の社の物足りなさでありました。

それからもう一つは、その課題をどううまく生徒たちの問題解決につなげるかということなのですが、帝国書院は、「追究するテーマを決めよう」、「地域の実態を調査しよう」、「地域の魅力と課題を分析・考察しよう」、そして「地域の課題の解決策を構想しよう」、それから「解決策と魅力を高める提案をしよう」というような流れで、そういう見出しで、順に問題解決の提案までこのサイクルを生徒たちに体験できるようにしています。

東京書籍も同じで、「課題を捉えて問いを立てよう」、「地域を調査し、課題を捉え、課題の要因や影響力を考察しよう」、「解決策を議論し、提案し、構想しよう」、「地域のこれからを提案し、発信しよう」。つまり、最後に解決策の提案に至るという流れを取っているというところ。こういう点は評価できると思う。逆にほかの出版社によっては調査結果の整理の発表で終わる。つまり解決を考える、提案をするというところには至っていないというのもあると思います。そういうところで出版物の差が今回、出ていたというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、地理の教科書の採択をしている訳ですが、中学校の社会科の学習においては、やはり地理的分野だけではなくて、歴史的分野や公民的分野、こういうものとの関連性も意識した内容になっている必要があると考えております。そういう点から見ると、各社の教科書では関連するページ数を明記したり、色々工夫はそれなりにされてはいるのですが、その中で特に帝国書院の教科書を見ますと、もう巻頭で地理的学習分野の全体を示した上で、歴史的分野とそれから公民的分野で学ぶ事項との関連性を明記しております。こういう点から帝国書院には特徴があるかなと考えました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 見方、考え方の育成という観点では、教育出版は中心となる資料に吹き出しで問いが書かれておりまして、子どもたちにとって資料を見る視点が分かりやすくなっているかと思います。問いについて考えることを通して、その地理的な見方、考え方を育むことができるような資料になっているのではないかなと思います。以上です。

○教育長 ありがとうございました。

地域的な特色や地域の課題を捉えることについては、皆さん、いかがでしょうか。

○田谷委員 地域の特色ということですが、やはり子どもがなじみやすい特色を挙げていただいているところがいいかなと私は思っております。その中の一つ、教育出版は47都道府県の学習のページにおいて、都道府県の特産品と関連させたキャラクターですね、それから地域の特色を取り入れたご当地ナンバー、自動車のナンバープレートを取り上げております。子どもたちにとって親しみやすい教材、興味を持ちやすい教材を活用して勉強できるという点で、すぐれていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 もう一つ、これから地域の課題を捉える、地域の特色を考えるという点で言うと、人口減少とか人口分布の変化を考える必要が迫られている訳です。人口分布がどう今後になっていくか、人口分布の課題をどう取り上げているかというのを読み比べをしてみました。そうすると、大体どの社も2ページで説明をしていますが、教育出版は、4ページをかけて紹介、説明をしている。そして、特に後半の2ページは「人口分布のかたよりがもたらす問題」というテーマで、東京圏や大阪圏にどう人口が移動しているかという地図、それから、2040年の全国の老年人口率の推計、予測の色分け地図なども出していて、将来に向けてより多角的に考えられるようになっているという点は評価できる。

また日本文教出版も、過疎化とか過密化が進む地域の課題を表で整理をするというような活動も設けていて、生徒たちにそういう課題について理解を深める、理解を促すという機会にもなっているというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 東京都に関する学習のページという感じで見ていくと、東京書籍の方は東京都港区における外国大使館の分布というようなものを掲載しております。大使館のみに特化した分布図は、港区で学習をする子どもたちにとっては大変身近な教材になっているなど感じました。

また帝国書院は、お台場をはじめ、開発が進む東京の湾岸地域の写真を掲載して、港区の事例を基に東京の大都市圏における課題を考える学習を展開することができております。港区にとっては両社とも非常に身近な題材を扱っていていいなど感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 地理の学習は、土地の高低や位置、地形など、地図を活用した学習が不可欠となっております。帝国書院の教科書は、地域を概観する導入のページで、高低差ですとかそれから地域の特色、概要が分かる地図を掲載しておりまして、一目で見て当該地区を概観できるというつくりになっているかと思います。また、帝国書院は、「技能をみがく」というコーナーを21個掲載されておりまして、地理の学習を進めるに当たって必要な技能を子どもたちがいつでも学ぶことができる、学び方を学ぶという視点からも大変有効ではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。思考力、判断力、表現力の育成という観点からはいかがでしょうか。

○鈴木委員 学習を振り返るページを比較すると、各社ともに確実に知識、技能を育むとともに、学んだことを活用して背景に抱える課題等を話し合っ、思考力、判断力、表現力を育む構成になっているかと思います。東京書籍や帝国書院では、単元ごとの問いに対する考えをまとめる構成と

なっている点が評価できると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 そうですね。東京書籍は、表に自分の考えを整理する活動を多く取り入れております。また、サンプルも掲載されており、多くの子どもたちが学びやすい構成だと思います。

帝国書院は地図上に考えを書き込む活動を多く取り入れており、地図の学習に欠かすことのできない、地図を活用したまとめをすることができます。地理的な見方、考え方を働かせながらまとめを行っていくという視点が帝国書院の教科書では評価できると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

ただいまの皆さんのご意見を踏まえたと、教員の指導のしやすさ、思考力、判断力、表現力の育成に関する活動が充実しているというご意見から、帝国書院の教科書が適しているということで意見が集約されたように思いますが、社会（地理）につきましては帝国書院でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長 それでは、地理の教科書につきましては帝国書院に決定をいたしました。

次に社会（歴史）の教科書採択に移りたいと思います。皆さんからご意見はございますでしょうか。

○田谷委員 各時代ごとに扱われている比率を見ますと、各社によって違いがあるようです。東京都の資料や選定研究資料にあるように、各社とも近代史の比率が高いのですが、中でも文教出版、学び舎が40.4%、続いて東京書籍が39.7%の順に高い比率になっています。令和書籍は古代の扱い、育鵬社は現代の扱いが多いのが特徴です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 小学校を卒業して中学生という発達段階を踏まえると、これからも歴史を深く学んでいきたいという思いを子どもたちが持てるようにすることが大切だと思います。そのためには、歴史的な事象について様々な視点から考えられることができる教科書を採択するのがよろしいのではないかなと考えます。例えば様々な解釈がある事象については注釈であったり補説がついているようなことも大切ではないかなと思います。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 私も今のご指摘は非常に大切だと思います。

今までの日本の歴史教育、特に近現代史において言葉だけが独り歩きしたり、あるいはそれによって客観的とは異なる印象を与えたり、あるいは逆に政治的な論点の中に巻き込まれたりということがあったのです。そういう意味では、そういう事象についても、ただ言葉があるだけでは誤解も生まれやすくなるので、そうではなくて注釈や補説が丁寧になされている、あるいは、より多面的

にその状況を考えられるようなエピソードなどがうまく取り上げられているというようなことも必要なのではないでしょうか。

そういう観点からすると、実は教科書を見比べると、そういう注釈とか補説に配慮が行き届いている教科書もあれば、逆にある意味で片面的な見方しかできないようにしているのかと思いたくなるような断片的な情報だけで済ませている教科書もあって、そういうところはかなり慎重に選ぶ必要があるというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 教育出版については、各章の導入場面において生徒の興味・関心が高まるような写真、図版を提示しています。円滑な導入ができるのではないかと思います。また、「確認」「表現」というページが各ページについており、毎回の授業のまとめがしやすい構成になっています。

帝国書院は、単元を貫く章の問い、節の問いが構造化されていることに特徴があります。単元のまとまりの中で歴史学習を進めやすい構成となっています。

日本文教出版は、複数の資料を基に、歴史について深く考えることのできる「チャレンジ歴史」を設けています。学習の流れが明示されているため、教員が指導しやすい構成になっていると考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 自由社は、「時代の特徴を考える」という章が設けられておりまして、子どもたちが各時代を概観できるようにしてあります。

また育鵬社では、導入のページで各時代を象徴する人物などを掲載して、一目で見てその時代を捉えることができるように工夫されていると思います。

学び舎に関しては、人物やその逸話を中心に課題を把握させるような構成になっておりまして、子どもたちの印象に残る歴史的なエピソードですね、そういったものが多く取り上げられているのではないかなと思います。

令和書籍は非常にページが多く、じっくりと読み進めながら歴史を学ぶ教科書であると考えられます。例えば424ページの日本人の抑留された方々が建設されたウズベキスタンのナボイ劇場とか、そういった細かいストーリーも網羅されているように感じます。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 東京書籍の教科書を見ますと、「もっと知りたい!」というコーナーが定期的に掲載されておりまして、本文に関連する内容をさらに深めたりあるいは広げたりする視点で、異なる視点で捉えられるようなコラムが掲載されております。さらに、「地域の歴史を調べよう」というコーナーでは、地域の歴史をより深く、より学ぶことができることはもとより、テーマの設定とか調査と

か、あるいはまとめの流れなど、学習方法についても繰り返し学ぶことができる構成になっており、非常にいいなと考えました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 色々読み比べると、先程鈴木委員も言われたように、案外、令和書籍なども実は重要なエピソードが丁寧に書かれていたり、あるいは太平洋戦争に勝算があったのかどうかというテーマで議論ができるようになっていたりというところで、色々外で言われていたことから受ける印象に比べると非常に丁寧に書かれています。

そういう中で全体的に見ると、歴史の授業をどう展開するかということにおいては、単なる知識の暗記の科目と生徒が誤解するのでもないし、あるいは単なる政治権力の交代の歴史のように誤解することもないということが大事で、やはり国民の意識とか時代の空気の変化、あるいは産業の変化、生活の変化など、様々な角度から面白く取り組む、そういう好奇心をどう触発できるかということが大事なのだと思います。

そういう意味では、自分の身近な地域についても考えるきっかけをつくるということも一つの切り口としては重要だと思います。その点では、日本文教出版は、「身近な地域の歴史の探究―大阪市内を例に一―」という題で、12から17ページにかけて、緒方洪庵の適塾など大阪の学問、そして大阪の経済、文化というものをテーマにして、生徒たちがそれを調査してまとめる流れという事例を紹介している。事例自体もなかなかいいと思いましたけれども、そういう例を紹介するというのは、今度、それぞれ自分の身近なところで似たようなことを調べるきっかけにもなると思います。

また帝国書院は、『絹の道』と日本の製糸業」と題して、八王子を例に製糸業の発展を紹介する。あるいは、「発展する産業都市 大阪・神戸」と題して、阪急とか阪神ですね、私鉄とその沿線の発展、開発。そこに百貨店、宝塚歌劇とか野球とか新しい文化が生まれていく様子を紹介しています。そういうのも一つのいい教育かなと思いました。

また地域を見るという点では、東京書籍も、「地域の歴史を調べよう」というコーナーがあって、特に幕末から明治期にかけて、例えば会津の「藩の政治と産業」、あるいは福井の「幕末を生きた先人たち」、あるいは新潟の「明治維新のまちづくり」、そういうような形で取り組まれています。こういうのも良い試みであると思いました。どの地域においても参考になる。実際、当時、各藩、各地域に様々な動きがあって、その動きが明治以降にもつながっていきますので、そういうのは、自分の身近な地域で考えるというきっかけ、そしてまた時代を立体的に見るための題材としてもいいのではないかというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、山内委員の方からご指摘があった点を考えると、その他の教科書で地域にフォーカスしたページというのはあるのですけれども、やはり東京書籍の教科書は考察の仕方が明記されているので、子どもたちの学びを充実させる、そういう記述が多くあり、その中でもやはりすぐれ

ているのかなと考えました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 これまでのお話では東京書籍を推す意見が多いようなのですが、現場で指導に当たっている先生方のご意見を伺いたいのですが、課長、いかがでしょうか。

○教育指導担当課長 学校研究からは、東京書籍が扱いやすいという意見が多く挙がっているところでございます。理由といたしましては、各時代の代表的な事例が提示されているということであったり、二次元コードを活用した地理と公民との関連したデジタルコンテンツがしっかりと豊富なこと、まとめの活動が充実していることなど、様々な観点での意見が出ています。

○教育長 ありがとうございます。

皆様からの意見を取りまとめますと、内容の取扱い、子どもたちの学びやすさ、そして教員の教えやすさ、内容の充実という視点で考えると、東京書籍が教科書として適しているという意見が出ております。社会（歴史）につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、歴史の教科書につきましては東京書籍に決定いたしました。

それでは、ここで休憩に入ります。再開は5分後を予定しております。離席をされる場合は、5分後までにお戻りいただきますよう、お願いいたします。

（休憩）

○教育長 引き続き審議を再開したいと思います。

続いては、社会（公民）の教科書について採択を行いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 公民では、現代社会の様々な課題の解決方法、あるいは持続可能な社会の実現について考える学習を行っていきます。具体的には、対立と合意、効率と公正などを取り上げ、現代社会を見据える見方や考え方の基礎を養う学習を重視してきました。今回、6社の教科書を見ても、人権尊重の立場からの対立から合意に至るまでの過程と、考え方の過程が読み取れるように構成されている教科書が多いと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 私も、公民の学習というのは今後ますます重要度が増していくと考えております。各社、教科書の巻頭に、公民の学習の意義について子どもたちに伝えています。公民の学習の意義を子どもたちも理解しながら進めていくことが大切だと思っております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 人権尊重という立場から考えますと、やはり自由ということについて深く検討する必要があると考えます。そういう点で各教科書を見てみますと、人間が社会的な存在であるというような記述、あるいは憲法に定められている自由権というものがどのような内容になっているのか、

こういう記述に関しては、確かに各社、共通して記述があるところではありますが、そもそもなぜ人間は自由であるのかというような視点は、各教科書ともちょっと薄いなと感じております。そういう中でも東京書籍の教科書の中では、全ての人が自由で平等な人間ということを尊重し合っている理由について触れてあり、他の教科書とは違うなと感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 今ご指摘のあった自由というものをめぐる説明は私も気になって読み比べたところです。いわゆる憲法で定められているような自由権としての説明だけでは本当に不十分で、どういうふうに人権とか自由の思想や概念が発展してきたのか、あるいは幕末維新時、日本の洋学者たちがそれをどういうふうに読み取り、また我がものとして日本の中に取り込んだのか、あるいは日本の中で、それがためにどういう格闘をしてきたのかということの記述が本来必要な訳です。ある意味で、自由と個人の独立という二つを併せて考える必要があるのですが、今申し上げた点についてはどの出版社も記述が極めて薄かったという点は、残念でもったいないと考えたところでもあります。

また、対立と合意とか、効率と公正についても各出版社の読み比べをしましたが、例えば東京書籍とか日本文教出版は単元のまとめで、公園の使用のルール、決まりについて考える活動を掲載しています。思考ツールなどの活用も例示しながら、考えを分かりやすく整理している点も工夫があるところだというふうに思いました。ただ、この効率と公正とか対立と合意というのは、身近な題材で考えることも大事ですが、もう少し社会的な題材で考えることも大事で、その両方の題材について議論し、考える機会をつくっていくことが必要なのではないかなと思って、身近な題材があるからいいというふうにも短絡的には言えないのではないかなというふうに思いながら見ていました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 私も対立と合意、効率と公正に注目をして見ました。例えば部活がいくつかあって、そこがどの体育館を利用するかといった、部活の活動場所をめぐる問題ですとか、学校生活の中の問題を取り上げてテーマにしているのが、東京書籍、それから教育出版、日本文教出版、自由社、育鵬社でした。学校生活に関連する話題を取り上げるということが、やはり中学生である自分たちの興味関心を高めながら学習を展開するということができるのではないかなと思います。各社教科書において、マンションの騒音問題ですとか、避難所の開設、地域に関するテーマも設定されています。今後、地域社会を担う一員として育てる、育んでいくという視点から考えると、中学生のうちにこれらの問題について考えるというのは非常に重要なことであると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 今のこと、今のテーマをどう各社取り上げているかということで、面白かったのは日本文教出版なのです。これは公園づくりを話し合うというものなのですが、その参考の資料として、遊具と器具の想定価格の一覧というのがあるのです。つまり、色々な課題を解決しながら、あるい

は色々な利用する人たちの意見を調整しながら公園を造る。片方にお金の面での制約がある中でどういうふうに調整して、できるだけ効率と公正の両面からバランスの取れたものをつくっていくかという一つのロールプレイをするというのでしょうか、そういう題材としても、こういうお金のことも含めて議論ができるというのは面白いというふうには思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。それぞれ皆さんから、自由、そして対立と合意、効率と公正ということでご意見を頂きましたが、それ以外の視点ではいかがでしょうか。

○田谷委員 学習指導要領では、社会に見られる課題をなくしたり、その解決に向けて考察、構想したりする学習を重視することが述べられています。この、考察、構想という視点で見ますと、毎回社会参画に関して考える活動を取り上げているという点では東京書籍、まとめの活動が充実しています。また教育出版は、単元の初めと終わりで自分の考えの変化を記述する活動を取り入れております。単元全体を通した自身の変容を子どもたちが考えやすいようになっています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 もう一つ公民で重要な領域が、いわゆる経済的な活動を考えるという領域です。その点で、その記述がどうなっているかというふうな読み比べをしてみました。例えば価格のメカニズム、つまり需要曲線と供給曲線があって、その交点のところに均衡してくるというものですが、その説明を読み比べてみましたけれども、どの教科書も需要曲線、供給曲線を使って説明はしています。ただ、では例えば過剰な供給だったときとか過剰な需要があったときに、どうやって交点に、市場に任せていると均衡してくるのかというプロセスの説明が実は分かりにくい出版社もあります。東京書籍の153ページはあまり分かりやすいとは思わなかったですね。それよりは帝国書院とか文教出版の方が図で分かりやすく説明していると思います。

あるいは、そういう価格のメカニズム、それだけを話したのでは、生徒たちは何も面白くない。さらに色々な条件でどういうふうに均衡価格が動くか、つまり需要曲線とか供給曲線がシフトして起こるかというメカニズムまで話さないと、そういう理論は面白くないのです。そこまで説明している出版社というのが少ない。帝国書院が若干そこに触れていたかと思いますが、そういうところは少しもったいなく思いました。

その中で、今の価格のメカニズムを中心にした理論で比較的丁寧に書かれていたと思うのは、自由社です。自由社は、その需要と供給、そして均衡価格の話などをした後に、いわゆる競争市場に任せていてもうまくいかない部分、例えば経済の外部効果ですね、プラスの外部効果とかマイナスの外部効果、それから独占と寡占というところを順に展開している。こういう理論の展開というのは、丁寧に考えられているというふうに思っただけで評価をいたしました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 公民という教科の特性を考えた際に、先程話題に上がった社会参画の視点は欠かせな

いと思っております。選挙権の年齢ですとか、成人年齢の引き下げを受けて設定された東京書籍の特設ページ「18歳へのステップ」というのは、例えば結婚することができるのは何歳からでしょうかですとか、たばこやお酒を飲んだりしてもよいのは何歳でしょうかといったようなことが取り上げられておりまして、社会の一員としての自覚を高める上でもとてもよいと感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 採択するに当たって、現場で指導されている先生方の声をぜひ私は聞きたいと思うのですが、いかがでしょう。

○教育指導担当課長 学校研究からは、東京書籍が教科書として使いやすいという意見が多く挙がっているところでございます。主な理由といたしましては、生徒の生活に身近な事例が取り上げられていること、まとめの活動において、思考ツールなどを用いて生徒が主体的、対話的に深い学びが実現できるような学習になっている。そういうところの活動が充実しているというところで意見が挙げられているところでございます。

○教育長 ただいま課長の方から学校研究でのお話が出ましたが、踏まえまして、いかがでしょうか。

○中村委員 課長、ありがとうございます。

今の課長のご意見、それからこれまでの我々の議論を加え、現場からの声を総合的に考えると、私は東京書籍の教科書が港区には一番向いているのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに何か。

中村委員からまとめていただきましたが、社会（公民）につきましては、東京書籍でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、社会（公民）の教科書につきましては東京書籍に決定をいたしました。

続きまして、地図の教科書について皆様のご意見を伺いたいと思います。

○田谷委員 地図に関しまして、まず全体の構成についてです。東京都の調査資料に記載されているとおり、地図等の種類は東京書籍325に対し帝国書院は436、記載されている世界の地名数は東京書籍1,358に対し帝国書院1,753、記載されている日本の地図は東京書籍2,159に対し帝国書院2,555と、帝国書院の方が情報量が豊富であります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 地図は、単なる地理的な理解を深めるツールではなく、社会的事象について、位置それから距離関係を捉え、地理的な見方あるいは考え方、これらを育む重要な役割を担っていると考

えております。したがって、生徒にとって地図の見やすさ、統計資料の利用のしやすさ、こういう点が大きなポイントになると考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○鈴木委員 地図の見やすさの点では、帝国書院は全体的に鮮やかな緑や茶色で色分けをしていて、土地の高低差を表しています。また、世界の各地域の冒頭のページに鳥の目から見た地形図というのが書かれているのですが、山脈の起伏が分かりやすく表示されているとともに、地域の特色が分かるようなイラスト、分かりやすいイラストが示されているので、帝国書院の方が地域を体感しやすいというふうに考えられるかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 両方の出版社とも統計資料などもカラーでまとめられ、かなり分かりやすく工夫されている。その中で、一長一短、両方あるのですが、例えば中部地方で見てみたいと思いますけれども、東京書籍は101ページに愛知県の自動車工業の資料、地図が書かれていますが、それなどは、いわゆる部品工業、部品からどういうふうに組み立て、自動車の完成に至って、そしてそこからさらに世界に流れていくのか。物の流れ、物流の流れも含めて非常に分かりやすく書かれていて、地域の工業の構成というものが書かれているというふうに思いました。そういうのは帝国書院の方が工夫が弱いなというふうに思いながら見ました。

他方で、例えば同じページにちょうど諏訪の例を挙げていますが、要は、日本の地域を考えるときに産業史の流れで考えるというのは一つ面白い切り口で、例えば諏訪など言えば、味噌醸造から始まって、生糸、製糸、そして精密機械、そして電子機器と動いていく訳ですが、そういう産業の変化、地域における産業史としての地理ということで考える。

両社いいのはありますけれども、どちらが見やすいかということを考えると、おそらく帝国書院の方が産業の規模も含めてどう変化していくのかというところの説明は分かりやすいように思います。

それぞれ一長一短というところだということです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 同じように人口とか資源、あるいはエネルギー、あるいは農林水産業、工業など、世界全体のものが記載されているほか、各種の取扱いの中で日本との結びつきというものがトピックで掲載されているのが帝国書院です。この点は帝国書院の特徴かなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○鈴木委員 港区の生徒が活用するものなので、港区の取扱いというのも比較してみたいところです。東京書籍では、東京中心部の地図に大使館が文字と国旗で併記されているような形になってお

ります。また帝国書院の方では、東京湾臨海部の開発について最新の鳥瞰図が掲載されているかと思ひます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 やはり港区の子どもが使うのですから、港区のことはとても大切だと思います。帝国書院は、アジア史のページにおいて、シンガポールの拡大地図を掲載しています。海外修学旅行でシンガポールに行く港区の中学生が活用するに当たって適している教科書だと考えます。実際に現場で指導されている先生方のお声はいかがでしょう。

○教育指導担当課長 ありがとうございます。

学校研究からは、帝国書院の教科書が扱いやすいという意見が挙がっているところでございます。主な理由といたしましては、写真やグラフ、図などが大きく掲載されており、資料として活用しやすいということ。「地図で発見！」というページがあるのですが、このページなどを通して地理的な見方や考え方を働かせて学習内容を深めていく工夫がなされているなどという点が挙げられているところでございます。

○教育長 ありがとうございます。

学校現場での先生方の声も頂きましたが、いかがでしょうか。

○山内委員 今のお話などから、現場の使いやすさを考えて帝国書院でよろしいのではないかなというふうに思いますが、大事なことは、どちらの出版社にしても、同じような題材を扱っているように一長一短あるので、やはり教員としては常に両方の地図を見比べたり、さらに、今は、自分でも色々な地図データをダウンロードして地図のグラフをつくったり簡単にできる時代ですから、教員自身がより魅力的な資料をつくっていくということが大事であって、一つの出版社の一つ地図の資料だけで満足しないという努力はしていただきたいというふうに思ひます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

皆様からのご意見を踏まえますと、地図の見やすさや資料の活用のしやすさ、様々な観点からご意見を頂きましたが、両社の特徴が明らかになってきました。これまでのご意見を踏まえまして、帝国書院がよいという意見が多かったように思ひますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、地図につきましては帝国書院で決定をいたしました。

次に、数学の教科書に移ります。現行の学習指導要領から、数学的な見方・考え方の育成を重視した数学的活動と、データの分析を比較して説明するなどの統計指導の一層の充実が示されています。特に統計指導については、社会生活などの様々な場面において必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められています。それらの意見を踏まえまして、いかがでしょうか。

○田谷委員 まず、例えば教育長からお話が合った統計指導についてですが、1年生の導入の題材

に注目して教科書を拝見させていただきました。学校図書の244ページではルーラーキャッチ、大日本図書238ページでは長さの感覚が取り扱われています。データを実際に収集するには時間がかかり過ぎますが、このような題材は時間もかかりませんし、生徒が自席で取り組むことができる、スペースのことも考えられていると思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま田谷委員の方から統計指導についてのご意見がございましたが、そのほか、何かございますでしょうか。

○山内委員 統計的な思考力をどう育てるかというのは非常に重要なことです。今の学習指導要領もそこが大きな特徴にもなっています。港区も他の先駆的な教育をやっている学校などの視察もしながら、まさにAI、データサイエンス時代にしっかり、それに使われるのではなくて、その時代に主体的に引っ張っていけるような人を育てるにはどうしたらいいかということを考えている訳です。そういう観点でも、この統計的な部分、データの活用の部分というのは重要ですので、注目をしてみました。

そういう中では、今、田谷委員が言われたとおりで、生徒たちが自らデータを收拾する、単に与えられたデータを整理するのではなくて、まず自分でデータを採ってきて、それを使うというプロセスは非常に重要だと思います。自分たちでデータを採って、その分布を見る。さらに言えば、条件によって分布がどう違うかを比較する。こういうことをある種のゲーム感覚でも行えると、生徒たちはデータを見る力、データから考える力、あるいはそういうセンスが身についてくる。そういう教材が望ましいと私は考えています。

その観点でいくと、教育出版は1年生で250ページのところから、滞空時間の長い紙ヘリコプターをつくらうということを題材として取り上げています。啓林館は、いわゆる長方形の紙、リボンを題材にして、やはり滞空時間を目的変数にした整理をするということをしています。こういう二つの取組は高く評価して、この二つの教科書は高く評価していいと思います。ただ、両社を比べると、リボンの場合は長方形の紙の長さとか幅の二変数だけでありますし、形によっては非常に不安定でやりにくさもありますけれども、可変性という点で言えば、紙ヘリコプターの場合は翼の幅とか長さなど条件も、変数も多いので発展可能性もある。うまく作るときれいに落下しますので、計測もしやすいという点ではすぐれているのではないかなと思いました。

できればそれを、グループ間で最も滞空時間の長い機体をそこでつくって競争する、あるいは逆に、狙った滞空時間のとおりにつくるというゲームもできると、非常に面白く教育ができると思います。

ちょっと補足すると、この紹介されている紙コプターというのは、元々はイェール大学のビジネススクールの教材として開発されて、それが日本にも紹介されて、初等中等教育から大学院レベルの教育まで統計教育の題材として紹介されて、部分的には実践されていったものですが、よい題材だと思います。これが、ルーラーキャッチのような場合は、計測の誤差を理解する上ではいいのですが、今お話ししたような翼の幅とか長さ、そういう条件を変えるということができないという点

では、発展性、拡張性には乏しいというふうに考えることができます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 昨年の小学校の教科書採択の際には、P D C Aサイクルについて話題になりました。小学校からの継続という観点から言うと、特に1年生の統計指導のところではそうしたサイクルを意識した指導をすることが大切ではないかと考えます。そういう点から見ますと、東京書籍や教育出版の教科書は単元の冒頭でサイクルについて触れており、かつ単元の学習の中でサイクルのどの段階の学習をしているのかというのが生徒にも分かりやすく表記してあって、すぐれているなと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

現行の学習指導要領から、高校の数学Ⅰから中学2年生に四分位範囲及び箱ひげ図の学習内容が移行されています。2年生の統計指導についてはいかがでしょうか。

○鈴木委員 2年生の統計指導では、確率の単元と箱ひげ図を扱う単元の二つがありますが、大日本図書と数研出版の2社は、箱ひげ図を取り扱った後に確率を学習するという流れで、現在採択している教科書と流れが異なります。箱ひげ図につきましては、どの教科書も丁寧に説明されている印象があります。

単元の導入という点、東京書籍の180ページの題材が「牛乳の販売数の傾向は」ということで、単元の最後の方にはマーケティングアナリストによる学習ページが備わっておりまして、学習した箱ひげ図が商品販売でどのように活用されているか分かるようになっております。箱ひげ図を学ぶ意義や数学と社会のつながりという意味で分かりやすいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今の鈴木委員のお話に関係するのですが、マーケティングアナリストのページもそうですが、東京書籍の教科書には、「math connect」というページが散りばめられているのが印象的です。2年生の統計指導に限らず、鈴木委員が言うように、生徒の身の回りの事柄や社会とのつながりを実感することができるようにつくられていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 私も2年生の教科書を見比べた中で、鈴木委員が言われたように、東京書籍の2年生の題材というのはすぐれていると思います。やはりそういうマーケティングなどでどう販売戦略につなげるか、つまり売上のデータを曜日別に層別をして、そして次の戦略につなげるかという応用の面白さを感じ取ってもらえるというのは、とてもよい題材ではないかなと思います。

もう一つは、統計教育の中で重要なのは、分布を見るときに、必ずしも最初はきれいな一つの山ではない。山が複数あるようなときですね。その中に、何が後ろに隠れているか。そのばらつきを決める要因が何かというのを探るという思考が重要になってきます。そうやって、休日と平日で分

布を見るとどう違うかとか、平日の中でも曜日によってどう違うかとかと見ていって最後に、それぞれのプロットがつくれている。そのプロセスが非常によいと思います。そういうプロセスを通して、実は層別の概念、層別のセンスを理解することもできるようになっています。そういうところまで配慮されている教科書は案外少ないのです。その中では評価できると思います。

実は1年生の教材も似たようなことがあって、例えば日本文教出版ですね。ピッチャー、投手の球速のヒストグラムをつくって、最初は山が二つある。では、こういう投手に対してどういうふうな対策をうたらいいかというときに、二つの山は、実はストレート、直球の分布と変化球の分布の二つが組み合わさって二つの山があるのであって、それを層別をしてみるというところが大事だと伝えている訳です。そういう、最初、山が一つのきれいいではない山、複数の山になっていたり、汚い山になっている。そこを分解していくプロセスを理解させるというのは重要です。そういう教科書は評価していいというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

皆さんから統計指導の観点からご意見を今まで頂きましたが、それ以外の視点ではいかがでしょうか。

○中村委員 数学という科目は習熟度に大きな差が出やすい科目だと思いますので、やはり掲載されている問題の量あるいは質というようなものも重要なと考えます。東京都の研究資料によると、各教科書の例題も含めた問題数ですが、大日本、学校図書、教育出版の3社は5,000問以上あるようで、その他の4社も4,000問は超えており、問題数としては十分なのかなと思います。

内容の質の点から見ると、大日本、それから学校図書、ここについては計算力を高めるための基本的な問題を多く掲載しているため問題数が多くなっているなというふうに感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

中村委員の方から、掲載されている問題の質や量についてのご意見がございましたが、この点については皆様いかがでしょうか。

○鈴木委員 私も中村委員と同じ意見です。

一方で、掲載されている問題数は7社の中で多い方ではないのですが、啓林館、数研出版の2社は例題問題、それから練習問題の難易度が高い印象を受けました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 私もおおよそ似たような印象を持っているのですが、特に港区は習熟度別での授業も展開していますので、そういう意味で、それぞれの学力層に応じてうまく活用して、でも最後はそれぞれがある水準までは届くようにするというのを考えていただければいいと思います。そういう中で、どの教科書がいいのかということになるのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

問題の数量についてのご意見を頂きましたが、そのほかの視点でのご意見はございますでしょうか。

○田谷委員 これまた数学で一つ大切なことなのですが、小学校の算数から中学校での数学へと教科名が変わります。当然、学習内容は難しくなりますから、数学嫌いな生徒を生まないという点で、いかに小学校から中学校への接続をスムーズにいくかということはとても大切なことだと思います。1年生の教科書を見比べてみますと、東京書籍の教科書はイラストを添えて説明が非常に丁寧にされており、生徒にとっては取っつきやすい印象になるのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今回の教科書では二次元コードが多く用いられていました。東京書籍や数研出版、あるいは日本文教出版のコンテンツは補充問題とか、あるいはシミュレーションなど、種類が豊富だなという印象です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 私もそうに感じました。特に東京出版のコンテンツは、ワークシートや対話シートがありまして、端末を活用して直接書き込むことができるので、端末を活用する場面、教員がデジタルでワークシートを回収・点検できるといった場面が増えそうな気がします。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがいでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員の皆様から様々なご意見が出ましたが、統計指導、そして習熟度別の指導、小中の接続などの視点から、東京書籍の教科書がよいといったご意見が多かったように思いますが、数学の教科書については東京書籍ということによろしいでしょうか。

○山内委員 私から一言。

私も東京書籍でよいと思いますけれども、一方で、先程お話ししたように1年生のデータの活用のところで行くと教育出版の紙ヘリコプターの比較というのは非常によい取組だと思います。ですから、そういうよいものはきちんと共有して、東京書籍の教科書だけに固執しないで活用するように、そういう柔らかさを持って使っていただければというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、教育指導課長の方に、今の山内委員のご指摘も踏まえて、各現場の先生方にはよろしくお伝えいただければという前提の下で、数学の教科書につきましては東京書籍ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、東京書籍に決定をしたいと思います。

次に理科の教科書についてです。現行の学習指導要領では、観察や実験を通して、その結果を整理し考察するなどの探究活動を充実させるほか、理科を学ぶことに意味を感じ、理科への関心を高

めて、日常生活や社会とのつながりを持たせることを重視してございます。その点を踏まえて、ご意見を伺いたいと思います。

○田谷委員 前回の中学校の教科書採択の際にも議論がありましたが、探究的な学習の流れをどのように意識して教科書が構成されているかというのが大きなポイントではないかと思います。私は前回、啓林館の「探Qシート」、これは各学年の巻末に載っておるのですが、それについて発言させていただきました。結果的に現在は啓林館の教科書で授業を行っているのですが、新しい啓林館の教科書では探Qシートに実験動画などが確認できる二次元コードが掲載されていません。そういった情報が簡単に手に入ることが探究活動の妨げになる場合もあるため、あえて載せていないのだと思います。そういった点では改善が図られたと捉えています。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま田谷委員から探究的な学習についてのご意見がございましたが、この探究的な学習を支える教科書の構成について、そのほか、ご意見はございますでしょうか。

○中村委員 今、田谷委員の方からもお話がありました啓林館の探Qシートのことなのですが、学校現場でも大変使いやすいのではないかなと感じています。選定資料からも、生徒の主体的な活動をサポートできそうとの声が上がっておるようです。探Qシートも含めて、全体的に調査や実験では活動の流れがはっきりと示されておりまして、活動も進めやすいと思います。

それから大日本図書の教科書についてですが、1年生では課題発見、2年生では計画立案と考察、3年生では振り返りというところに重点を置いて探究する学習となっているようです。生徒の発達段階を踏まえたつくりになっているなど、そういうところに工夫を感じております。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 学校図書が観察や実験を基に探究の手法を丁寧に段階的に示していると思います。探究のページではイラスト、それから図などが大きく取り扱われていまして、生徒は目で見えて理解をしやすいような形になっているのではないかなと思います。

教育出版についても同じような印象を非常に受けておりますが、探究活動の実験のページがより大きく、見やすくつくられているなど感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 例えば探究活動の流れということ言えば、東京書籍も章ごとにその流れが比較的分かりやすく書かれている。教科書の下側の方をずっと見ても、どの段階を今記述しているのか、どの段階なのか、探究のサイクルのどこに当たるものかというのが分かるように書かれているという点も気が利いているというふうに思います。ただ一方で、問題発見とか仮説が先に示されているものもある。逆にそこもう少し考える猶予の時間を持たた方がいいのではないかという指摘もでき

るかとは思いますが。

もう一つは啓林館ですね。探Qシートで生徒が自ら課題や仮説を書かせるつくりになっていて、しっかりと探究のサイクルを促そうという意図が感じられるように思いました。

○教育長 ありがとうございます。

先程、鈴木委員の方から生徒の分かりやすさという点で、イラストや図の大きさについての話がありましたが、この点についてはいかがでしょうか。

○田谷委員 理科については、全国的にも言えることですが、港区においても学力調査の理科の結果が他教科に比べて低いと伺いましたし、実感しております。苦手な単元として挙げられる3年生の天体の単元では、どの教科書も見開きで大胆にページを使っていて、宇宙の広大さと地球の小ささを表現しています。資料の大きさや見やすさは、実験や実感を伴いにくい学習で非常に大切だと思っています。全体的なイラストや写真の見やすさで言いますと、東京書籍や教育出版も大きくて見やすい印象を持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○鈴木委員 大日本図書の教科書だけ、ほかの教科と同じようなB5判のサイズになっております。ほかの4社はA4版だから大日本図書の方が少し小さく感じられて、その分、イラストや図表が全体的に小さいというふうに感じております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 私も同じような印象を持って、イラストとか図表の見やすさ、あるいはその配置ですね。そういうのは啓林館の方は良いように思いました。

もう一つは分かりやすさという点でも、私は少し比較をしてみました。例えば力の合成とか分解、つまり、いわゆるベクトルの概念が入ってくるところがどう分かりやすく、実感を持って生徒が理解したり、そしてまた、自分でも手で三角定規を使いながら図を書いたりして理解を深めるという過程をどう分かりやすく説明していくかというところで見ましたが、啓林館は比較的そのプロセスが丁寧に説明されているので、授業を担当する方も教えやすいのではないかと、あるいは生徒自身も理解できるのではないかなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかの視点でのご意見等はございますでしょうか。

○山内委員 今、お話をしたように、理解しにくいテーマをどう実感を持って理解するか、そこから概念をしっかりとつかみとるかということが重要ですが、その点では私自身は啓林館を引き続き使うということによろしいのかなというふうに思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 中学3年生の教科書を見比べていて感じたのですが、どの教科書会社も章末や巻末に

問題が掲載されています。5社の中でも、教育出版と啓林館は問題の難易度を分けて、量が豊富にあると思いました。高校受験を考えると、教科書にこうした問題があると生徒も教員も助かるのではないのかなと思います。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 私は中学校3年生の教科書の中で、遺伝の規則性のところを見比べてみました。その中で東京書籍と啓林館は色分けをしながら丁寧に解説していて、生徒がぱっと見て分からないところを図、絵などを見て参考書のように読み進めることができるので、生徒にとっては使い勝手がいいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

各委員の皆様から、探究学習、そしてイラスト、図表の見やすさなどの視点からご意見を頂きました。これまでの意見を踏まえますと、啓林館を推薦する委員の皆さんが多かったように思いますが、理科につきましては啓林館でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、理科の教科書につきましては啓林館に決定をいたしました。

ここで教科書の入れ替えを行います。再開はちょっと細かいですが36分。5分間の休憩にしますので、よろしくお願いいたします。

(休憩)

○教育長 それでは時間になりましたので、審議を再開したいと思います。

次は、音楽(一般)についてです。音楽の教科書は2社でございます。現行の学習指導要領では、「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりすることができるよう、内容を整理する」とともに、「音や音楽と自分の関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化についての理解を深める学習を充実する」ことが挙げられてございます。その点を踏まえまして、ご意見等を伺えればと思います。

○田谷委員 両社とも表現、鑑賞のバランスを意識して教材を取り上げており、生徒に親しみやすい楽曲を取り入れているなどの工夫をしていると感じます。この二つをバランスよく学習していることがよく分かるのが目次の次のページだと思います。教育出版1年生6ページは、音楽科の学習を見通せる「学習MAP」を掲載しています。さらに、共通事項である音楽を形づくっている要素を手がかりにした学習の進め方が示されています。

一方、教育芸術社1年8ページは「学びの地図」として、育成したい資質、能力について項目を示しております。何を学習するか生徒が確認することができます。さらに巻末、1年生91ページについては、1年間の学びを振り返り、身についた力でプレゼンするページを設定しています。教師が指導内容を明確にする上でも、生徒が見通しを持って主体的に学び学習を深めるという視点でも、教育芸術社がよいと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 両社とも内容はそれなりに充実していますし、比較的似ているところは似ているというふうに思います。一つ例として、「夏の思い出」という歌が教育出版は1年生の18ページから20ページですね。それから、教育芸術社は2・3年の上巻の18ページから23ページで取り上げていますが、いずれもその歌詞に出てくる情景の写真などを本文に載せています。また、それぞれ作曲者・中田喜直、作詞・江間章子の、この歌をつくった時のことについての文章を添えているというような工夫もあります。やはり一つの大きなことは、歌を理解すること、その情景をどれだけ思い浮かべられるか、それから作曲者や作詞者がどんなことを考えながらつくったかというところを考えるとというのは大切なことですので、そういうところにも配慮が行き届いているというのは評価できると思いました。

加えて言えば、教育芸術社が6ページにわたっているというのは、最後の2ページで、表現をどういうふうに工夫するかというところを丁寧に書いていますけれども、その中では楽譜の読み取り方とか、あるいは歌詞のパートだけを読んでいるのだと気づけない、伴奏の楽譜から何を読み取るかというようなことも提示している。そうやって、譜面から音の構造を読み取って表現につなげるというような、そういうページがあるのも好ましいというふうに思います。本来はそういうのは、こういうのがなくても音楽の先生が自ら指導すべきことでありますが、教科書の中にすぐ出せるようにするということです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 主体的あるいは対話的な深い学びを実現するための手だてという観点で検討して注目してみました。教育芸術社の教科書の1年19ページのところで「学びのコンパス」というページを新設しております。主体的な学びの手だてとして、学びの手順を示して見通しを立たせている。対話的な学びの手だてとして、調べたことを基にして旋律の特徴とかあるいは曲の構成がどのようになっているかを話し合っ、それを踏まえてどのように歌いたいかというものを考える。表現を工夫する活動につなげようとしております。こういうものは、生徒が自分の考えを広げたり深めたりすることにつながると思います。さらに、「フェルマータを付けて歌うことによって、どのような感じになりますか。」など、「見方・考え方」を働かせて深い学びにつなげようとしていることが伺われます。

一方、教育出版社の方は、1年生の教科書の16ページあたりで、「Active!」というページを設定しております。ここでは歌唱教材の2曲の特徴を音楽を形づくっている要素ごとに調べて、調べた内容を表に記入して説明する学習活動を示しております。表に記入する分量が多いように感じるもので、歌で表現する活動とのバランスに気をつける必要があるかなとは考えました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

音楽科の三つの資質・能力の育成、「主体的・対話的で深い学びの実現」などの視点からご意見を頂きました。我が国の郷土の伝統音楽についての取扱いについてはいかがでしょうか。

○鈴木委員 両社とも、2・3年生の「上」の方で取り上げられているようですが、教育出版の2・3年生の上の58ページのところには、日本各地のお祭りや、芸能と音楽の関わりについて、写真ですとかを用いながら、鹿踊、獅子舞、龍踊、そういったものを掲載しておりますね。

教育芸術社の方でございますが、こちらも2・3年生の68ページには京都のお祭り、それから芸能の種類について、その目的や内容などが挙げておられまして、神楽、田楽といった形で六つに分類して、写真と日本地図を用いて、見開きのレイアウトになっているので分かりやすく掲載されているかと思います。祭りや芸能が地域の人々の暮らしの中で育まれて大切に受け継がれてきたということを理解する上でも教育芸術社の方が分かりやすいかなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

選定資料等を基に、教科書ごとに音楽科の三つの資質・能力を育成するという視点からご意見を頂きました。学習内容や学習活動が分かりやすくまとまっていることで、生徒が見通しを持ち、主体的に学習に取り組む。自分の考えを持ち、対話的に学びを深めることができるほか、生徒が我が国の郷土の伝統音楽について歴史や背景を知り、よさを味わうという視点においても教育芸術社の教科書が適しているのではないかというご意見が多かったように思います。音楽（一般）につきましては教育芸術社でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、音楽（一般）につきましては教育芸術社に決定をいたしました。

続きまして、音楽（器楽合奏）の教科書についてご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○中村委員 教育出版、それから教育芸術社ともに、洋楽器と和楽器のバランスをよく取り上げているように感じました。全体のバランスは2社とも非常によいと思うのですが、やはり音楽（一般）と同様に、教育芸術社の方は8ページのところで「学びの地図」のページを設定して、学習指導要領に示されている三つの資質・能力に対応する学習内容や教材が整理して記載されております。そこがいいかなと感じました。教科書を通じて身につけられる力が一目で分かるように示しておりまして、見通しを持った学習をする上では非常に最適であるというように考えました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 音楽は、いわゆるその国あるいはその文化に根づいている、つまり、日本の伝統音楽もそうですし、それぞれの国にも、それぞれの地域にも伝統の音楽があるということを知る。そういう中から多様な文化に目を向けるような国際的な視野を持つということ、一つそういうきっかけにもなる訳です。そういう意味では、どういう曲で構成しているか、あるいはどういう楽器を紹介

しているかというのが一つの評価の切り口になるかと思います。

東京都の教科書調査研究資料で言えば、諸外国の音楽の曲数は教育出版が31で教育芸術社は25なのですが、それだけでなく、例えば楽器の紹介などを見ると、教育芸術社はページを開いたところに、いわゆる多様な民俗楽器、特に打楽器などを中心に紹介している。多様な民族楽器を紹介したり、そういう意識づけをしているというのもよいのではないかというふうに思いました。

○教育長 ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 教科書選定研究委員や学校研究の意見にもありますけれども、教育出版では、例えば88ページでは表題曲以外の楽曲が多く掲載されていて、生徒が興味を持ってアンサンブルに発展させていくことができるようにつくられているのではないかなと思います。巻末の98ページくらいからは「名曲旋律集」という形で、簡単な曲の解説とともに旋律が取り上げられておりまして、例えばシューベルトの「子守唄」、四季から「冬」とか、「赤とんぼ」とか、そういった簡単な曲、こういったものが生徒の興味や関心と併せて活用していくことができるのではないかなと思います。

一方、教育芸術社の方では、鑑賞の学習した教材が器楽の教材として掲載されています。さらに、43ページですかね、創作ですとか歌唱の学習との関連の工夫がされています。楽曲に親しみを持って器楽の学習に取り組むことができるのではないかなと思います。さらに打楽器の奏法が細かく記されておりまして、アンサンブルの工夫がしやすくなっております。特にカスタネットですとかタンバリンをはじめとする小物の楽器がアンサンブルのアクセントになるだけではなく、小学校の頃からなじみ深い楽器でもありますので、小中一貫教育の視点でも学びをつなげることができると思います。このような視点で見ていくと、教育芸術社の方が分かりやすいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

打楽器の楽曲の取扱いについて、いかがでしょうか。

○中村委員 私は、箏曲の扱いと少し違いが出ているなと感じました。教育出版の方は40ページで、日本の曲以外に3曲の練習曲が入っているのですが、こういう日本の曲以外の3曲の練習曲というのは、学びを深めることができる形になっているなと。また46ページでは「荒城の月」の前奏をつくる学習が取り入れられております。

それから教育芸術社の方は41ページの方で様々な奏法を紹介して、それぞれの曲の中で試すことができるように構成されております。生徒の学びの向かう力を一層育んでいくことができると考えます。

さらに教育芸術社では43ページに、日本の音階と反復の仕組みを用いて琴の旋律をつくる学習が取り入れられていて、とてもよいと思いました。生徒は知識を活用しながら琴の演奏に取り組むことができます。今回の学習指導要領の改訂趣旨を考えると、教育芸術社の教科書の方が生徒に資質、能力を確実に身につけさせるということではすぐれていると考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま、中村委員の方から打楽器の楽曲の取扱いについてのお話がございましたが、それ以外

の視点で何かありますでしょうか。

○田谷委員 従来の子どもたちが最も手にしやすい楽器に関して言いますと、私は音の切り方やつなぎ方であるアーティキュレーションの扱いが興味深いです。アーティキュレーションは旋律に様々な表情をつけることができるので、アンサンブルで活用して、豊かな響きを味わうことができます。教育出版は20ページ、教育芸術社は17ページ、どちらの教科書でも様々な奏法の紹介をしていますが、教育芸術社では、「アーティキュレーションを工夫しよう」として、知識を奏法に生かすようなつくりになっていて素晴らしいと感じました。曲想を感じ取り、それぞれの音にふさわしいアーティキュレーションを工夫することによって、より豊かに音楽を表現することができ、学びが深まると感じます。

○教育長 田谷委員、ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

教科書選定資料等を基に、教科書ごとに内容の取扱いなど、様々な視点からご意見を頂きました。教育芸術社の教科書が港区の実態に合っているという意見が多かったように思います。音楽（器楽合奏）については、教育芸術社でよろしいでしょうか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、器楽合奏につきましては教育芸術社に決定をいたしました。

次に、美術の教科書についてです。現行の学習指導要領では、美術科で育成する資質・能力は、「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」として示されてございます。感性や想像力を働かせて表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように内容の改善を図ることが示されております。それらの点を踏まえまして、ご意見を伺えればと思います。

○山内委員 今回の教科書を見比べたときに、まずどれも作品数が多い。おそらく3社とも全部数えると500～600という程度で多く紹介していると思います。その中でも、例えば日本文教出版はどちらかと言えば同じ年代の生徒が作成した作品が多いとか、出版社の傾向はあるように思います。そういう中で、先程教育長が言われたように、できるだけ身近な生活とか社会の中にある美術的なものというのですかね、美しいものを美しいと思えるような感性をどう養っていくか、あるいはこれからつくっていく生活や社会をデザインするときに、そういう感性をどう持ち込めるかということを考えていくと、できるだけそういうことに目がいくような題材をどう多くするかということが一つ重要になってくるかなと思いました。そういう点で言うと、逆に日本文教出版は少しその点が弱くて、それよりは光村図書とか開隆堂の方が、そういう外に目を向けるという点での糸口になるような題材が多く紹介されているように見えました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 開隆堂の教科書は、学習をサポートするキャラクターが造形的な視点で考えさせるとともに、学習の意欲を引き出す効果があると思います。また、1年58ページには学びの資料とし

て、作家の紹介や制作現場での様子、発想、構想の仕方、作品の説明が詳細に掲載されており、生徒がつくりたいものを考えたり表したりするときの手がかりになると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 光村図書の教科書なのですが、こちらは、学習の目標が学習指導要領に合わせて3本の柱で構成されているので、教師にとっても生徒にとっても、何をどのように学ばいいのかが非常に分かりやすい構成になっています。特に美術1の17ページあたりには、生徒が作品を発表し、構想を練っていく様子が伝わるようにレイアウトが非常に工夫されていて、見やすいなと感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 光村図書は、中学3年間で必要な資料をコンパクトな別冊にしています。タブレット端末と持ち運べる薄さが工夫されていて、学年が上がってもずっと使い続けられる、手に取りやすいコンパクトな資料集になっているのではないかなと思います。美術1の巻頭の方では、「どうやって描く？」という形で、どんな描画材を使うかですとか、それから生徒が主体的に考えることのできる紙面が設定されています。生徒の想像力を広げるヒントとなるのではないかなと思います。また、5ページの道具の配置の仕方では、写真を結構多様に、視覚的に丁寧に説明されているので、どの生徒も見てすぐ分かるように、無理なく安心して取り組まれる手だてになっているのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

表現の学習では、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想することを重視していますが、その点についてはいかがでしょうか。

○中村委員 生徒が強く表したいということを思い描けるように工夫されているのは光村の教科書だと思っています。いかに写實的に表現するかということよりも、どのような思いを込めたいのか、自分の作品を通して自分の考えを他者に伝えるために、どのような材料を使い、どのような表現をすればいいのか、そういうことを考えさせる問いが至るところに示されているなと感じました。自分の考えをはっきりと持たせてから発想や構想を抱かせることは表現活動にとって大変重要なことだと思います。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 私は、日本文教出版が1年26から29ページ、観音開きのページを使って、実際に折って立てて鑑賞できるびょうぶ作品、唐獅子屏風図、これは国宝なのですが、それを掲載しています。獅子の身体が立体的に見え、動きも感じられます。生徒が奥行きなどの見え方の違いに気づき、鑑賞することができるようになってきていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 見比べると、先程指摘があったように、例えば光村は資料集のああいう工夫は一つ評価できる。また特に、できるだけ自由な表現をといても、補助線を引いてあげないと、中学生が本当の意味で自由な表現活動はできない。そういう点で言うと、例えばその資料の中に、そういう手法が分かりやすく見やすいところにあるというのは、評価できると思いました。

それから開隆堂は、見ていくと、日本と世界の美術の文化の歴史に興味を引きつけられていくような構成になっている。片方で空間のデザインですね、ポスターのデザインとか、身近な題材を積極的に取り上げています。この点は光村も同様のところはあり、やはり美術の文化史的なところへの興味を引き出すという意味では、開隆堂の方が工夫がされているかなということを感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 光村図書では2・3年生の12ページから15ページにかけて、「体感ミュージアム『最後の晩餐』を鑑賞しよう」ということで、教科書紙面で作品を鑑賞した後に、二次元のコードを読み取ってデジタルコンテンツで鑑賞を深めることができます。書き込みツールを使って作品に線を引いて、一点透視図法を確認したり、描かれている人物のセリフを考えたりするというのは、新しい見方や新しい感じ方を広げるのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

選定資料等を基に、皆様から様々な意見を頂きましたが、今回の改訂の趣旨を踏まえて様々な工夫がされている光村図書の教科書を推薦する意見が多かったように思います。美術につきましては光村図書の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、美術につきましては光村図書に決定をいたします。

次に、保健体育の教科書についてです。学習指導要領では、生徒がどのように学ぶかということを大切にしています。また保健体育の目標に、生涯にわたる心身の保持・増進や豊かなスポーツライフの実現、これがあることから、体育分野の運動やスポーツへの関わり方、保健分野の感染症の予防を扱った単元について特に留意をしたいと思います。それらの点を踏まえて、ご意見を頂ければと思います。

○山内委員 では、今の感染症に関して一つ見てみたいと思います。あとは、それぞれの出版社の構成との関係で論評してみたいと思います。

4社、どの教科書も、各単元の冒頭に、例えば大修館であると「課題をつかもう」、大日本は「つかもう」、東京書籍は「学習課題」、学研は「学習の課題」という見出しで課題を示しています。ただ、課題の示し方は出版社によって様々ですし、より問題解決につながるものもあれば、漠然としたものもあります。そういう工夫を各社している割には、どういう違いで評価できるかなという感

じを持ちながら読みました。

感染症の予防の単元を例に挙げると、大日本は「インフルエンザについて知っていることを挙げましょう」、「感染しないために日頃から実践していることを挙げましょう」とありますが、限られた時間の中でそこばかり時間を割いていても、それよりは必要な知識をきちんと授けながら考察をさせていくということが必要です。大日本に比べると、例えば東京書籍は、「病原体の感染リスクを軽減するためにはどのようなことに気をつけたらよいでしょうか」という形でかなり課題を明確化、具体化していて、そういうところでも出版社間での差があるというふうに感じました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 大修館は、新型コロナウイルス感染症の予防対策としてどのようなことを心がけていたか振り返り、生徒の生活経験から課題をつかませる工夫をしています。

また、性感染症の予防も大切な学習です。最近都内でも増加傾向にある梅毒については4社とも記載がありますが、コラムとして資料や説明が詳しいのは大修館でした。

一方、東京書籍は、セントルイスの市長が出した緊急事態宣言が死者を最低限に抑えたということを示し、その効果を考えさせるように構成しています。現実には緊急事態宣言を経験した生徒たちなので、その効果と同時に、困るところも考えることができるような教材になっていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 私は大修館の学習の進め方が充実しているなと考えました。まず大修館の特徴は、140ページ付近ですが、小学校の体育科の保健領域、「病気の予防」という単元の部分で学んだことを丁寧に振り返っております。そしてその上で、病原体が侵入して症状が軽い人と重い人がいるような理由について考えさせて、最後に抵抗力を高めるために家庭生活ではどういうことに興味を持たせるのか、自分たちがどんなことに気をつけなければいけないのか、そういうことを考えていく形で工夫がされております。また、病原体の写真をたくさん使うことで、様々な病原体がある、現実にそういうものがあるのだということに興味を持たせようとしていることも伺われます。あと、感染経路をフロー図で表したり、免疫の仕組みを擬人化したモデルで表したりと、色々な工夫が見えているところがいいなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

保健分野では感染症とその予防を扱った単元を通して生徒がどのように学んでいくかという視点で皆さんからご意見がございました。その中で、中村委員の方からは大修館が他社と違うという意見がただいまございました。

体育分野の方でのご意見も伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員

東京書籍においては口絵で、スポーツの視点からSDGsを紹介しています。

大日本図書では口絵で「スポーツはみんなができる、みんなをつなげる」と表現し、様々な競技

種目を紹介しています。

学研は「スポーツには、世界を変える力がある。」と表現し、スポーツには様々な魅力があることに気づかせています。

大修館では、口絵のページに「世界中から選手や観客がつどう国際的なスポーツ大会」と題し、オリンピック、パラリンピックに関連した写真を多く取り入れています。特にパラリンピアンを技術者が支えている姿や、「共に生きる」と力強く書かれたページは、生徒が支える視点に気づき、保健体育の見方、考え方を働かせることにつながると思います。このような教科書で学ぶと、保健体育の見方、考え方が一層深まり、豊かなスポーツライフの実現を図ることができると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 田谷委員がおっしゃるように、運動やスポーツへの関わり方についても4社ともそれぞれ工夫が見られます。学研の方では、行うこと、見ること、支えること、知ることについて、それぞれ、それに沿ったイラストやカラー写真を用いて生徒の理解が深まるような工夫をしています。東京書籍の方では、北海道マラソンの大会運営をする関係者に加え、参加者や観戦者の様子を写真に載せております。ただ、体育編が口絵から離れたページにあることやオリンピックの扱いが少ないことから、オリンピックの与える効果が伝わりにくいように感じるのがちょっと気になります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 大修館では、運動会との関わり方を例として、19ページあたりに、多様な運動やスポーツへの関わりがあることを示しております。この事例は子どもたちにとって、自分たちも参加して行っている運動会を題材にしていますので、より身近に感じ取れるものではないかなと思います。

また、大日本図書も東京マラソンを例に挙げて四つの関わり方を大きな写真で示して分かりやすい構成になっております。ただ、左側が文で右側が写真や図で示すことにしていることで、文と写真との関連性を図るのがやや分かりにくくなっているのかなという感じを受けました。その点、学研は文章とイラスト、写真が対応していて見やすいように思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

非常に難しいところですが、皆様からのご意見を伺いますと、現段階では学研と大修館の2社に絞られたように思いますが、改めて皆さんの方からご意見を頂ければと思います。

○中村委員 大修館の方は、港区での事故対応等のときに参考にしているASUKAモデルについてコラムで扱っております。115ページあたりですね。これは港区の生徒に適した内容になっております。

一方でがん教育の部分では、学研は「課題の発見」でイメージを膨らませて、「課題の解決」のところでデータから考え、「学びの活用」で家の人に向けてがんを予防するためのメッセージを書く

いう、学習の道筋が分かりやすくなっております。

大修館は、課題をつかんでがんについて誤解を解き、「身につける・考える」で資料を使って学び、「学習のまとめ」でグループにて話し合うというような流れになっております。

学研の教科のまとめ方は、課題を継続し、家庭に場所を変えて考えさせるという視点から考える等、よくつくられているなというふうに感じます。

ただ、大修館はがん教育については他社と少し構成が変わっているという点が気になりました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 確かに、学研の学習の流れもしっかり考えられています。しかし、中村委員がおっしゃられたように、大修館ではがん教育について、見開き2ページでがんとその予防について学習して、その次のページでさらにがんの早期発見とその回復を特集しています。ここまでじっくり回復を扱っている教科書はほかにはないのではないのでしょうか。しっかりと学習を家庭生活に生かす工夫がされているのではないかなと思います。

次のページでは、88ページあたりですかね、喫煙者と非喫煙者の肺の様子を写真で見比べられるようになっていて、生徒がたばこを吸ったときの悪影響について、色、目で見て学ぶことができるようになっているかと思います。ほかの小単元でも大変丁寧に教材を扱っている印象があります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 学研と大修館を比べたときに、グラフとか資料の使い方では大修館の方がすぐれているように伺えます。例えば応急処置、いわゆる心肺蘇生などをするというのを、何々をすべきという意味で、こうだからすぐしなければいけないのだというところをきちんと理解を深めるかということがまず何よりも大事になるのですけれども、例えば大修館の112ページと学研の122ページを比べると、まず心肺停止や呼吸停止からの経過時間で救命の可能性がどれだけ減るかというグラフは両方同じようになります。ただ、どちらの方が読んだ読者の印象に残るかといえば、大修館の方が残るグラフになっている。

それからもう一つは、大修館の方は、それに加えて114ページに、居合わせた人、バイスタンダーによるAEDの使用の有無で生存率、社会への復帰率がどう変わるか、AEDを使用すると生存率、社会復帰率は5倍から7倍に上がる訳ですが、そのグラフ、根拠が示されている。片方、学研の方にはそのグラフがないというようなことです。

あるいは、今ちょうど暑い時期ですので、熱中症についてどういうふうに記述しているかというのが気になる訳ですが、例えば大修館の方が、理解を深めるために必要なグラフがそろっています。例えば熱中症というのは、気温が仮に25度くらいでも湿度が高ければ起こる可能性があり、つまり気温と湿度の組み合わせで見なければいけないのですが、大修館の方は167ページですが、横軸に湿度を取って縦軸に気温を取って、そのところに、学校で運動中に熱中症の起こった事故、それをプロットしている。そうすると、湿度が高くなると気温が下がっても熱中症が起こっている、

それが分かる。そういうグラフがついているのは大修館だけです。そういう点でも、資料の扱い方では評価できるのではないのでしょうか。

それから、今、これから若い人たちへの問題としては、覚醒剤とか大麻等の違法薬物の使用、実はこれはかなり水面下で広がっているところがあるので、できるだけ早い年代、中学生くらいの時期に、いかにそれが危険なものかということの理解を深める教育が重要になってくる訳です。その4社を比較した中でも、大修館は「大麻は危険」というコラムを添えているのも評価できると思いました。世の中一般、どうも怪しげなネット情報などで、大麻はそれ程危険ではないのではないかという情報も出回っている中で、しかし実際は精神医学的に見れば全くそんなことはない。そのことを強調していない出版社もあるのですが、大修館はしっかり強調しています。もちろん他の出版社も、例えば東京書籍は薬物乱用の社会的な影響ということとさらに2ページ取って丁寧に伝えているということとか、大日本図書はたばこや酒とか薬物を誘われたときの断り方を練習しようと、断り方のロールプレイを入れている。そういう工夫は実はあって、そういうところはそれなりに評価できると思いました。

大修館と学研との比較に戻すと、依存というと、最近中学生、高校生で更に重要なのはネット依存。ネットゲームとかスマホの依存ですけれども、大修館は96ページに「見直そうスマホの習慣」というものが取り上げられて特集が組まれています。学研は、行動嗜癖への説明のごく一部で触れている程度ですが、しかし大修館は1ページを丁寧に割いています。分量で言えば東京書籍も同じように1ページ割いていますが、大修館はスマホの利用時間というのがどういうふうに増えているとか、あるいは脳に対してどういう影響を及ぼしているか、さらには、自分でチェックできるインターネット依存チェック、いわゆる記入式のチェックシートが添えられている。そういう意味では、そこでも大修館は4社と比べて、あるいは学研と比較して、すぐれているというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

ただいまの皆さんのご意見を踏まえて、保健分野、そして体育分野も含めまして、大修館の教科書が適しているということでご意見が集約されたように思います。保健体育につきましては大修館の教科書でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、保健体育の教科書につきましては大修館に決定をいたしました。

次に、技術の教科書についてです。学習指導要領では、生徒がどのように学ぶかということをお大切にしています。特に応用について考える場面では、社会からの要求、安全性、環境への負荷や経済性等を踏まえた最適化の視点を重視した学習を充実させることが求められています。具体的には、自動車は速さなどの機能性だけではなく、安全やエコ、そして低価格に資するようなものも必要になってくるということで、複数の視点からの検討をする必要があるということになります。それら

の点を踏まえまして、ご意見を伺いたいと思います。

○鈴木委員 生徒がどのように学ぶかということを考えてみますと、教育図書の教科書はスマートフォンスタンドですとか、二足歩行ロボットの制作など、ものづくりについての興味を持ちやすい教材を取り上げています。また、各領域に「スゴ技」「技ビト」として活躍する職人や技を複数紹介することで、将来の子どもたちの職業、何になりたいかというところに目を向けることもできるのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 先程の最適化の視点などを考えたときに、近年の技術科の教科書というのは、いわゆるものづくりの中の品質管理学の思考というのが随分重視して入ってきているように思います。そう考えると、もっと思考ツールなどもうまく紹介されたいのではないかということは、教科書を見て感じたところです。実は色々な思考ツール、特にフィッシュボーンなどは品質管理学の中で出てきた方法論で、日本が誇る方法論ですが、そういうものの紹介というのが出版社によっては不十分です。東京書籍は学び方の方法として思考ツールが紹介されていますし、デジタルコンテンツにも触れています。さらに具体化な活用事例が107ページで、生物育成の技術の章の第1節ですね。問題の発見と課題の設定で、フィッシュボーンで構造化するというのが紹介されています。そういうフィッシュボーン、特性要因図とか、Ishikawa Diagram と呼ばれる方法、そういうものはもっとほかの社も丁寧に紹介していいかと思います。

あと、道具をどのように学ぶか、導入という点では、私は開隆堂の教科書を高く評価しました。ガイダンスとして、スプーンとはさみとボールペンという、つまり私たちが日頃あまり疑問を持たずに当たり前で用いている生活の道具について、そこにも問題解決の手順に合わせて改良がなされていること、あるいはユーザーや開発者の願い、要求と、科学的な考え方。その両者のトレードオフの中で最適化がなされてきたということが非常に分かりやすく説明されています。この開隆堂の8ページから17ページというのが、技術科の学ぶべき思考の流れが非常に分かりやすく説明されているということで、高く評価したいと思いました。

教育図書は冒頭でそのような説明がほとんどありませんでしたし、東京書籍は16ページから「技術の最適化って何だろう」で漫画も添えて説明はされていますが、それは問題解決のプロセスの中に最適化の議論を置かないで、先に最適化だけで取り出して説明してしまっている。その後、次のページで問題解決のプロセスの説明はあるのですが、そこには最適化の概念があまり入っていないという点で、私は東京書籍には少し不満を持ちました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 確かにそうですね。開隆堂の巻頭ページには、これもちよっと面白いのですが、空調機能がある作業服や自動運転技術などが写真で載っています。生徒の主体的な学びにつながるように工夫されていると思います。しかし反面、職人の技などが示されないことで、職業に対する意識

を育てることは難しいと考えます。

東京書籍では各領域に技術のたくみとして活躍する職人を複数紹介しています。

教育図書も同じようにキャリア教育として専門の技術と実際の職業を関連づけてイメージしやすい構成になっています。また、教育図書はハンドブックとしてもよいと思います。巻末に、持ち運びが利くハンドブックに技術がまとめられており、家庭でのD I Yにも活用できるため、生徒の主体的な学びが期待できると思います。私も持ち歩きたい内容がたくさん掲載されています。

また安全面に関しては、4社とも創作過程の中に安全面への配慮が記載されており、生徒への安全指導は充実していることと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○中村委員 学習指導要領の目標には、「よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う」というところが書かれています。そういう点から考えると、学校での学習から家庭生活でも学ぶことができる、そういう教科書がいいと考えますが、そういう点から見ると、先程田谷委員からもご指摘がありました教育図書のハンドブックというのは大変よい工夫をしているなと感じました。

東京書籍をちょっと見てみますと、東京書籍にもそのような工夫があります。生徒がこうしたいという思いに寄り添うことができるよう、制作の基礎技能や手順が、「TECHLab」として掲載されています。50ページあたりですが、生徒はこのページを見れば課題に沿って1人でも学習を進めることができる形になっており、いい工夫がされているなと感じました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

どの教科書も主体的な学びを意識してつくられているように思います。技術科の見方、考え方を育て、社会でより深い学びにしていくために、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等を踏まえた最適化の視点が重要だと考えます。この点ではいかがでしょうか。

○田谷委員 今、教育長がおっしゃいましたその点についてですが、どの教科書も、材料と加工の技術の単元は、初めに木材、金属、プラスチックの加工について素材の特性を学んでいます。次に、生活の中で困っていることから問題発見、課題設定をし、実習の中で様々な技術を駆使して課題解決に向けた試行錯誤をします。その後、問題解決の評価、改善、修正をしたところで社会の発展に目を向けるという考えで構成されています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

○山内委員 その問題解決の思考、主体的な学びも意識しながら思考の流れを学んで実践するという点では、東京書籍について言うと、第1編は「材料と加工の技術」、第2編が「生物育成の技術」、第3編が「エネルギー変換の技術」で、それぞれ3章構成ですが、第2章がそれぞれ、第1節が問題の解決と課題の設定で始まります。そしてその章の最後は「問題解決の評価、改善・修正」で終

わる。さらに第3章になると、第1節で「〇〇技術の最適化」というような形で構成されている。そういう意味で、教科書の構造がしっかりしているという点では評価できるというふうに考えました。

ただ、その点でさらに評価できるのは開隆堂ではないかと考えました。東京書籍と同様に、ここはA、B、C編、「材料と加工の技術」がA編、「生物育成の技術」がB編、「エネルギー変換の技術」がC編となっていますが、最初に「願いや欲求」があります。「願いや欲求」というのは、別にここで解説するまでもなく、いわゆるニーズ、つまり消費者が求めている要求のことですが、その願いや要求が時代とともに変化してくること、そして、「科学の考え方」、これは、いわゆる問題解決に使用できる技術、いわゆる片仮名で言うとシーズですけども、その「科学の考え方」を用いて「願いや欲求」をどう実現するか、つまり最適化していくということがまず最初に分かりやすく図示されています。そして、その編の最後は問題解決の過程について分かりやすく図示されている。例えばA編について言うと、ちょうど50～53ページのところにその問題解決の考えるべき流れが書かれていて、そして98、99ページを見ると、その編で勉強してきた流れがきちんと図示されている。そこでどういうふうに最適化されたかが書かれている。

あるいはB編で言えば128～129ページが問題解決の流れのところになります。150～151ページに目次、振り返りがあるという具合です。また、その途中に、その思考を整理するようなワークシートも用意されています。そういう意味では、一つは経験の浅い教員が担当する場合、それからもう片方で、技術科の学習指導要領が変わるより前の時代のクラシカルな技術科の内容にどうしてもしづかれがちな年配の教員にとっても、こういう新しい思考のプロセスを教えるということには適した教材ではないかというふうに思いました。

また開隆堂は、その編の最初のところですね、例えば107ページを見ていただくと分かるように、幅広く、今までの色々な科目で勉強してきたこと、社会科とか理科で勉強した知識がどう統合されてくるかということも書かれて、そういうつながりも見せているということも非常によい配慮だと思いました。

私からは以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 教育図書では同じ場面でA編、B編、C編で持続可能な社会、そしてD編ではソサエティ5.0ということで、徐々に高度な考えを扱うように工夫されています。目次でも学びの進め方が分かりやすく表現されていますが、最適化という視点から考えると、東京書籍の方が分かりやすく取り扱われているように感じます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今、鈴木委員がおっしゃったように、東京書籍はどの領域でも必ず同じ場面で最適化について考えさせるような構成を取っているというふうに感じます。また、巻頭でも最適化につい

て見開きで扱うなど、生徒が思考するのに十分な資料を用意してくれているようです。また、教育図書と同じように、目次でもその学習の流れが大変分かりやすく示されていて、生徒から見ても学習をする上で分かりやすくなっているなというふうに感じます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

これまでの皆さんのご意見を踏まえたと、開隆堂を推す声もありますけれども、大勢としては東京書籍の方が主体的な学びや最適化について考える場面で上という意見が多かったように思います。技術につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、技術の教科書につきましては東京書籍に決定をいたします。

次に、家庭の教科書についてです。学習指導要領では、少子高齢化などの社会変化、そして持続可能な社会の構築など、これからの社会の急激な変化に対することが出来る資質・能力を育成することを目指しています。これらの点も踏まえまして、ご意見等を頂ければと思います。

○中村委員 家庭というのは、言うまでもないことですが、日常生活に直結した教科です。家庭や家庭生活の機能、それから幼児との触れ合い、高齢者の介護、これから生徒が経験していく社会の変化の中で生涯にわたってよりよい日常生活を行うために、実践が豊富に掲載されている教科書はどれなのか、そういう観点で採択するのがベストだと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 ただいま中村委員がおっしゃいました視点で申し上げますと、現在、3社とも写真や図、説明が掲載されており、港区の中学校3年生が幼稚園で実施している保育実習の手順が丁寧に書かれています。一例を挙げますと、東京書籍では244ページから249ページ、教育図書では62、63ページ、開隆堂では63ページから65ページに幼児との触れ合い体験について掲載されています。生徒が幼児との関わりを写真で観察しながら、よりよく幼児と関わっていく計画を立てていく資料となっています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 田谷委員のおっしゃるように、3社とも港区の中学3年生にとって活用しやすい構成になっているかと思います。教科書会社ごとに本文や参考資料の量に差はありますが、特に東京書籍は保育実習の流れとポイントというのが見開きで詳しく書かれていますので、生徒はこの見開きのページだけを見れば活動の見通しを持ちやすく、自信を持って活動に取り組むことができるのではないかなと思います。終わった後の施設へのお礼状の書き方なども細かく載っているのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 家庭科で何が重要なのかということを考えたときに、やはり安全とか健康という切り口が非常に重要になってくる。あるいは多様な人たちが共に生きるためのニーズは何か。そう考えたときに、私の今回読み比べた印象は、例えばいわゆる消費生活の部分では、今、ネット取引等がある中で、どうその中で安全を守るかというのは子どもにとっても重要なテーマな訳ですが、そういう新しい領域がもっと手厚くあってもいいのになと思いつつながら、家庭科の教員の人たちはやはり調理実習と裁縫に時間を割きたいのだなということで、正直言って、どの3社とも私は教科書としてはあまり評価をしなかったということです。

ただ、例えば調理についても健康教育ということから考えると、栄養素の話はたくさん出ていても、日本人の塩分摂取量が多いままで、それをどう減らすことが例えば脳卒中とか心血管系の疾患リスクを下げることににつながるかという、エビデンスがあることについてもほとんど触れられていないという意味でも、旧来型の指導にとどまっているという点で、私自身は、家庭科の教科書はいずれも不満を持っているというところであります。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま山内委員の方から、消費生活全体を通して、持続可能な社会の構築について考えを見直し、工夫していくというような視点も大事だといった話がございましたが、その点を踏まえて、皆さんからご意見等はございますでしょうか。

○鈴木委員 3社とも、買い物ですとか日常生活を切り口に、消費者としての意識を高めている内容にはなっていると思います。また、消費者被害の背景と対応についても取り扱うようにはなっております。例えば具体的に東京書籍では200ページから203ページにかけて、教育図書の方では238ページから245ページにかけて、開隆堂の方では274ページから279ページにかけて、消費者に関する法律や制度ですとか、それから意思決定のプロセス、消費者トラブルに関しても、多くの図や絵などを活用して説明されているのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 その点で申しますと、3社ともキャッチセールスの対応方法は取り入れられていると思います。東京書籍の200ページと教育図書の240ページには、生徒が道を歩いているときにアンケートを頼まれた場合、どのように答えるかを考えるロールプレイングが設定されています。開隆堂の279ページでは、アンケートの記入の場面から、その後商品を契約してしまった場合のやり取りも記載されています。3社とも、生徒たちに悪質商法の特徴に気づかせ、どうすべきだったかを考えさせる教材となっています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 今の中学生は、クレジットカードを自分で発行することはできないでしょうけれども、家庭で親のカードで、親子カードを使ってクレジットで色々取引するというようなことはよく見受けられる状況だと思いますので、クレジットカードの仕組みというものも一定程度の理解は必要と

考える訳ですが、その点から教科書を見てみますと、教育図書の136ページあたりを見ますと、クレジットカードの仕組みを知るための資料が本当に分かりやすく、そして生徒がクレジット取引におけるそういう商品とお金の流れを理解しやすい構成となっていて、非常に参考になります。

あと東京書籍の204ページを見ると、商品選択と購入のための意思決定のプロセスというようなものの説明が載っております。まさに先程、田谷委員から出た悪徳商法に引っかからないようにするための意思決定過程ですね、そういうところを理解するための前提としての、本当にこの商品は自分に必要かということをしっかし考えましょうということに関して、批判的検討で検討することの重要性が分かるようになっていっているところはいいところかなと思いました。今後、子どもたちが社会人となって自立していったって、消費者被害に遭わないようにする、そのためにも契約行為についても理解してほしいと思った次第です。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 SDGsとかその他のページでも、環境への負荷をどう減らすかということが一つの観点になる訳ですが、その観点で言うと、例えば衣服をめぐる3社ともちょうど2ページ見開きで、いわゆるリサイクルとかリユースとかというふうに言われていること、持続可能な消費のサイクルというのでしょうか、それを解説しているというのは共通しているところです。ただ、衣服だけでなく、もう少し幅をどう広げてこういうことを考えられるようにするかというところは、教育上の課題になるのかなというふうに思います。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 どの教科書も、学習指導要領に示されている住民生活について当然のことながら取り上げられている訳ですが、地域の様々な災害の備えですとか、新しい日常生活に向けた空気環境の指導なども各学校で充実させていただけたらいいなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 どの教科書も、幼児との関わりに関する単位では実際に幼稚園訪問についての記載があります。ところが高齢者との関わりで言うと、どの教科書も、高齢者の身体的な特徴を知って、実際に模擬体験を行うという流れで学習が進んでいるのですが、そこに実際の関わりを持つというところまでは踏み込んでいません。現在、少子高齢化が進んで、子どもと高齢者との関わりが薄くなっているという実感がありますので、この家庭科の教科書では、保育の実習だけではなくて高齢者との交流を意識した構成にしてもよいのではないかなと感じました。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

皆様からの意見を踏まえ、消費者生活全体を通した視点、あるいは今、中村委員からは高

齢者との関わり方等についてのご意見がございました。なかなか全体的にそこまで踏み込んだところはございませんので、ぜひ教育現場の方ではその点も踏まえてということで、お願いできればと思います。

それらを踏まえて、今の皆さんのご意見を踏まえていきますと、東京書籍が、図などを活用し、より丁寧な説明がされているほか、資料が掲載されているというようなことも含めて、子どもたちの学びを広げ、日常生活で実践できる教科書ということになったのかなというふうなご意見が多かったと思います。家庭につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、家庭につきましては東京書籍に決定いたします。

次に、外国語の教科書についてです。現行の学習指導要領では、三つの資質・能力をバランスよく育むことを目指すことが示されています。特に外国語では、英語の4技能5領域を小学校から中学校、高等学校へと一貫した目標に向けて習得することが記載されています。それらの点も踏まえて、互いの関係や気持ちを伝え合う対話的な言語活動を一層充実することが求められております。この点も踏まえましてご意見を頂ければと思います。

○山内委員 今、4技能5領域等々のお話がありましたが、やはり外国語の学習においては、インプットとアウトプットをどうバランスよく組み合わせていくかということが課題になって、各社そのバランスを配慮しながら構成をしているということがまず大雑把な印象としては持ちましたということです。その中で、インプットがあってこそ主体的な対話ができる基礎もできますので、そこを大切にしながらということだと思います。そういう中で例えば東京書籍は、アクティビティの1とか2とかという生徒同士の単語のやり取りも設定されている。そういうロールプレイを色々しながら会話の機会をつくる工夫もされているということも分かりました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 開隆堂の方では、1年生の方で「S p e a k & W r i t e」というところで好きなキャラクターについてペアやグループで対話ができるようになっております。また三省堂では「話してみよう」という活動を毎時間のように設定しておりまして、また登場人物、登場キャラクターが子どもたちの興味を引くようなイラストになっているように感じます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 光村の教科書を見ると、1年生の58ページ、59ページあたりに「Y o u c a n d o i t !」というコーナーが設けられていて、英語を使ってグループで相手に様々な質問をして、友だちの新たな一面を発見しようというような活動が設定されております。以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 啓林館は、毎時間のスピークに加え、「E X P R E S S Y O U R S E L F」の活動も

設定されています。例えば1年生の81ページには、ジェスチャークイズを出し合う活動が設定されています。

教育出版は毎時間のように「Think & Try!」が設定されています。文章が途中まで記載され、穴埋め部分を自分の言葉にするようにつくられていて、取り組みやすいと感じました。

○教育長 ありがとうございます。

皆さんからのご意見を伺いますと、対外的な言語活動が充実するよう、各社とも工夫がされているようです。実際の生活場面が設定されていて、生徒の興味を引く内容の対話だったり、各社がそれぞれ工夫をされているようです。これらも踏まえて、皆さんから引き続きご意見を頂ければと思います。

○中村委員 港区という観点から考えますと、今年度より全10校、3年生の海外修学旅行というのが実施されております。東京書籍や光村図書は2年生でシンガポール海外旅行を題材にしているということが伺えます。その点は港区の実態には合っているように思います。

それから啓林館は、シンガポールへの旅行計画を友だちと話す場面が設定されています。

それから東京書籍は、2年生の27ページの「Real Life English」でも、旅行先で許可を求める、依頼すると題した教材を設定しております。こちらでもシンガポールの観光地を舞台としており、より海外修学旅行を意識できる印象を受けました。

以上です。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今シンガポールのお話が出ましたが、本区でも修学旅行はシンガポールということでそういう関係もあるのですが、光村図書は2年生の表紙もシンガポールになっています。また東京書籍、開隆堂、啓林館は機内アナウンスの教材が設定されています。三省堂、教育出版は、空港でのアナウンスの彼我が設定されており、光村図書は機内と空港両方のアナウンスの場面が教材として扱われております。これは子どもたちにとっても、飛行機に乗っている雰囲気になるとか、空港を歩いている雰囲気になるとかということで、分かりやすい教材ではないかなと思っております。

○教育長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょうか。

○山内委員 あとは港区の特色としては、一つは他の地域、自治体に先駆けて、小学校、特に1年生からの外国語、英語の教育を始めてきたという蓄積があります。それからまた、一部の小学校・中学校では、いわゆる母語が英語の生徒の混じった教育環境での教育活動というのもあります。そういう環境の中で、小学校段階の知識を生かして、中学段階の英語教育をどう行うか。そういう観点でどの教科書がいいかということを最後絞っていくということが大事なんじゃないかと思えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 各社とも、巻頭の数ページを使って小中の接続の単元を設定しているかと思います。開隆堂は13ページを使って、新しい仲間へのインタビューですとか、英語によるやり取りや、英語の語順を理解する活動など、小学校の学習の内容を踏まえた活動が設定されているように感じます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 小学校で学習した語彙の扱い方という視点ですけれども、1年生の巻末資料で、6社とも全て、小学校で学習した単語を一覧表内で記号で示している。三省堂、それから光村図書は巻末の一覧に加え、各パートのニューワードの欄に小学校で学んだ単語が分かりやすく記号で示されており、より丁寧な印象を受けます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 小学校からの連続性という視点でもう一つ。東京書籍は巻末の「Can-doリスト」に中学1年、2年、3年の目標を示すとともに、小学校の学習についても記載している点がより分かりやすい印象を受けております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 小学生の国際の授業は、英語で歌を歌ったり、それからじゃんけんをしたりというような、英語を楽しむ場面が多かったのですが、中学校に進学すると同時に、急に文法が入ってきてしまったり、単語を全て正しく書かなければいけないというようなことで、急に英語が難しいなど考える子ども、感じてしまう子どもがすごく多いと思います。東京書籍では、学習した文法についてまとめているページで英文の構造を色分けして分かりやすく示しているように感じます。

○教育長 ありがとうございます。

それぞれの教科書の特徴を各委員の皆さんからお話いただきました。今、鈴木委員からもお話がありましたように、コミュニケーションを取るためには単語や文法をインプットすることも重要であるというお話もありました。その点については、いかがでしょうか。

○中村委員 今、教育長が言われた視点から見ると、開隆堂は各ユニットのはじめに「Scene」というページがあって、そこで新しい表現を数コマの漫画から知ることができる、そういう構成になっております。非常に、生徒にとっては学習に臨みやすい印象を受けます。

それから東京書籍は1年生の前半に、「Sounds and Letters」をユニットとユニットの間に設定して、基礎的な学習を確実にし、後半の学習につなげていく、そういう構成になっているところはいいなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 あと、今回の特色は、教科書に二次元コードが各社つくようになって今回は2回目ですかね、各社コンテンツの充実化を図っているというところがあると思います。例えば色々な新出単語の発音などを確認したりというだけでなく、例えば教育出版だと、Word&Phrase 学習シートがあって生徒が英単語を書き込めるようになっている。あるいは開隆堂は単語クイズが設定されている。あるいは東京書籍は、語句とセンテンスの区別が設定されている。以前に比べるとインタラクティブに学習ができるような教材が開発されているということも一つの特色ではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

港区では皆様ご承知のように小中を通じて国際理解教育の推進に力を入れております。自国日本の文化を英語で伝えることも大切な視点かと思っております。その点で皆さんから各社どのような内容があるか、印象をお教えいただければと思いますが、いかがでしょうか。

○田谷委員 日本の伝統文化を扱っているのは、東京書籍が1年生で落語、三省堂が2年生で落語、教育出版が2年生でやはり落語、光村図書が1年生で正月を題材にしています。これはとてもいいことだと思っております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 東京書籍では、2年生のユニット7で世界遺産について、また96ページのユニット、Stage Activityでも、日本の世界遺産を海外の人に紹介しようという活動が設定されています。3年生ユニット1では、日本文化では日本のポップカルチャーを紹介しようという活動が設定されていて、漫画やアニメが題材として使われているようです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 各社、日本のことを題材にしているのは、例えば三省堂も1年生ですとレッスン6が「Discover Japan」というタイトルでありますし、その中で国内旅行での会話から、花火だとか着物とか茶道とか、日本の文化に広がっていきます。それからもう片方で、先程の東京書籍とも通じますが、3年生の教科書で言うと、レッスン5が「Translating Culture」ということで、漫画とかアニメというものが題材に取り上げられています。今、アメリカ等々、海外の若い世代に日本のポップカルチャーというのはかなり浸透して、興味を持っている人たちがいるので、そういう題材も会話できるように練習をする。そういうところにも興味を向けるというのはよい機会になるのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 各社とも、今、各委員が挙げられた例以外にも、色々な今日的な社会問題を取り上げています。例えば各社様々な形で取り上げられているのが環境問題です。例えば啓林館は1年生で

海洋プラスチックごみの問題を取り上げています。英文から要点をつかみ、後半には自分自身に置き換え、大切なものについてスピーチをする、というような活動が設定されております。また光村では、3年生でA Iと言語というものを題材に扱っているようです。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 今お話があったように今日的な社会問題、それも日本一国とかでは解決できない、国際的な協調の中で解決しなければいけない話題というものをどう取り上げるかというのも工夫のしどころで、それも各社そういう題材が取り上げられているという印象を持ちました。

さらにその上で、例えば東京書籍で言うと、ユニット6はグローバルシチズンというものについて考えるというのがテーマになっている。そういうのもいいところですし、さらに併せて言えば、その後にグローバルシチズンとしての抱負を伝え合おうとか、さらに次のページはテレビも国際ニュースに関心を向けるような題材だったり、かなりそういう目を広げる工夫がなされているという印象を受けました。

あと、せっかくなのでパラパラ見ていて面白いなと思ったのは、東京書籍はその先へいくと、読み物の中に、インデックス1は、ちょうど今の中学生くらいが小さい頃に夢中になった『はらぺこあおむし』、それについての題材があったり、そういう色々な翻訳物とその作者に目を向けたり、そういう興味を広げるような題材はいいなと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 ここでちょっと書くことについてなのですが、最近、子どもが筆記体を書けないということで、学習指導要領では「生徒の学習負担にも配慮しながら筆記体を指導することもできる」と記載されているそうでございます。取扱いについては各社によって様々でございます。東京書籍、開隆堂、啓林館は、巻末資料に記載があり、光村図書は、文字の形には様々あることに触れるまでにとどめています。三省堂は筆記体ではなく草書体という表現で伝えています。進んだ学習に取り組める生徒は特に港区に多いだろうと考えると、筆記体を指導する場面も出てくるのではないかと考えました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

皆様のご意見をお聞きますと、非常に各社とも工夫を凝らしていて、なかなか甲乙をつけがたいところなのですが、様々な題材を取り扱っている点、そして小学校からの接続という点から、東京書籍を推薦する声が多かったように思います。外国語の教科書につきましては東京書籍でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、外国語につきましては東京書籍に決定をいたしました。

次に、特別の教科道徳の教科書についてです。学習指導要領では、道徳的価値について多様な価

価値観を知り、時に対立がある場合も含めて、誠実に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢を大切にすることが示されております。授業において生徒一人ひとりが自分自身の問題として捉え、考える道徳、そして議論する道徳へと転換を図るよう示されています。それぞれご意見を頂ければと思います。

○中村委員 各社とも読み物教材を中心に構成されていますが、読み物以外の教材もございました。東京書籍と光村は、3学年ともに読み物以外の教材も設定している。例えば東京書籍の1年生22ページの「いじめに当たるのはどれだろう」や、光村の2年生128ページの『『尊重』の本質を探ろう」、こういうものが読み物以外の教材として挙げられます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 読み物以外の教材というところで、出版社の工夫が今回かなり違いが出たのではないかなと思っていますが、特に私が注目したのは日本文教出版です。日本文教出版は、自分の気持ちをどう捉えて感情を修正するか、それからよりよいコミュニケーションを取れるようにするか、情緒的に安定性のあるコミュニケーションを取れるにはどうするか、という観点で特集が組まれています。視野を広げて、いじめという枠組みではありませんけれども、例えば1年生は40、41ページで、「怒りの感情と上手につき合おう」ということで、いわゆるアンガーマネジメントの方法、あるいは怒りそのものをどう捉えて、それをどう和らげるかということを書いています。

それから2年生は、39ページが「自分の考え方を見つめよう」というところであって、そして3年生になると「お互いを大切にするコミュニケーション」というところで、いわゆるアサーティブコミュニケーションと言われるようなコミュニケーションの仕方が紹介されたりしています。中でも例えば2年生、自分の感情と向き合うようなところでは、色々な物事の受け止め方で、不安とか怒りとか憂鬱な気分が強まるのですが、その受け止め方の癖、自分の癖を修正すると随分そこが和らぐ。そうすると対人関係でもより安定感が出てくるということになる訳ですが、そういう、受け止め方の癖を修正することが書かれている。あるいは怒りや不安とか鬱のきっかけになりやすい思考、何々すべきとか完璧主義とか白黒思考、そういうものを例に紹介し、それをもう一回本当にそうかどうかと見つめ直そうとする、いわゆる精神医学的に言えば認知療法的なものの見方ですが、非常に丁寧に紹介されていて、私はこれは特に評価していいと思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 各社とも、巻頭に道徳科での学び方を記載しています。例えば学研では、「道徳科で学ぶこと 考えること」と題し、教材との出会い方、考えを深めるためのポイントが示されています。ペアやグループで話し合うことやタブレット活用についても触れ、考える道徳、議論する道徳を意識した巻頭だと感じます。

○教育長 ありがとうございます。

取り扱っている題材についてはいかがでしょうか。ご意見を頂ければと思います。

○山内委員 題材は、環境問題もあれば、オリンピックもあれば、スポーツもあれば、防災もあり、様々ですけれども、教育出版は防災とか自然災害の扱いが比較的充実している。その中で例えば「もし一日前に戻れるとしたら」ということで、できる工夫は何だろうというのを考える、そういうものを見つけるというようなものもあります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 あかつきは、情報モラルについて二つの物語が連続して配置されて、より深く考えられるように設定しています。2年生の44ページ「いつでも・どこでも・SNS」と、48ページ「ほどほどライン」です。

日本教科書は、3年生24ページの「そっと生きる？」の文章に、新型コロナウイルスの大流行に触れている点は特徴的です。

また日本教科書は「ウェルビーイングカード」が付録としてついており、話し合い活動を促す手だてが講じられています。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 補助教材としては、道徳ノートが付属されているのが日本文教出版のみでございます。現在でも港区では活用しており、各校でも有効に活用されていると伺っております。

○教育長 田谷委員、ありがとうございます。

ほかはどうでしょうか。

○中村委員 今、田谷委員からご指摘があった道徳ノートにつきましては、生徒の立場だけではなくて、教員側、初任者、2年目、3年目、要するに若手の教員が年々増えているという現状から考えますと、このようなノートがあるというのは、授業で活用できる余地が非常に大きくて、教員のためにもいいのかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 教える側の先生方の日々の授業の準備などを考えると、日本文教出版のように道徳ノートがあるのがよいのかなと考えられます。先生方の授業の進め方に応じて柔軟に活用できるように構成をされている点もよいのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 あとは1年間通しての学習ということに関して言えば、各社巻末に学びの記録を記入するシートを用意している、そういう出版社もあります。

一方で、後ろについているのをせっかく見たのでお話しすると、東京書籍は、「心情円」と、ピンク色と青色の輪っかを組み合わせて、自分のピンク色の気持ちと青色の気持ちの割合を示すようなものがあるのですが、人間の気持ち、感情をこんなに単純に2色の組み合わせだけで捉えるなんて

いうものが本当にいいのでしょうか。逆にもっとそこを柔らかく広く多面的に見ることが必要なのかなと思いました。

あと、付録で面白かったのは光村書店ですね。ちょっと話が題材の方に戻りますが、巻末の付録に浜田廣介の『泣いた赤鬼』という童話を取り上げられています。実はこういう児童文学の名作というのは、色々なことを考えられる種のようなものが含まれています。同じ題材でも、小さいときに親から朗読してもらって感じたこととか、小学生で自分で読む、中学生あるいは大人になって読む、実はそこで感じ取れるものとかそこから考えられるものは違う。それが児童文学のいい名作なのです。そういう意味で、小さい時代に親しんだ児童文学、あるいはもっと言えば絵本とかそういうものも実はこういう領域の題材としては非常に貴重であって、光村はその中から廣介童話を選んでいる。私はこれは非常にいいセンスだなというふうに思いました。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 二次元コードの観点からずっと見てみますと、学研は二次元コードを読み取ると思考ツールのコンテンツがあって、それを活用することができる形になっております。

あと日本文教出版は、二次元コードから思考ツールや心情メーターを活用することができて、より考えを深められる工夫があるように見受けられます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。性差やLGBTQについても注目すべき点かと思います。各社の取扱いについて、いかがでしょうか。

○鈴木委員 光村図書では、2年生の132ページのコラムで「マイノリティの問題はみんなの問題」と題して、LGBTQの記載がされています。

あかつき教育図書の2年生の方ですね。こちらの142ページにも「お互いの性のあり方を考える」と題しまして、こちらはLGBTQ+、さらにほかの性の在り方についても幅広く触れているのではないかなと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○田谷委員 今の鈴木委員の続きになるのですが、日本文教出版でも2年生の76ページ「“生きづらさ”と向き合う」で、物語として性同一性障害を扱っています。いずれにしても各社とも性差やLGBTQについてはしっかり扱っていることが分かります。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○中村委員 道徳の教材には人物が欠かせないかと思うのですが、私がこの観点から見たところ、東京書籍は、ロケット開発に今まさに取り組んでいる植松努さん、動画クリエイターのHIKAKINさん、それから新5,000円札紙幣の肖像画に採用されている津田梅子さんなどが出ているようです。

また教育出版からは、落語家の桂米朝さん、プロ棋士の藤井聡太さん、マザー・テレサさんなどが挙げられています。

光村図書には、魚類学者のさかなクン、医師の鎌田實さん、建築家のアントニオ・ガウディさん。こういう人たちが取り扱われているようです。

○教育長 ありがとうございます。

ただいま中村委員の方から、各社が取り上げている人物についてのお話でしたが、ほかはいかがでしょうか。

○山内委員 人物については、今の人たちと歴史上の人物をどううまく組み合わせるかというのも大事ですが、後者の方について言えば、例えば学研は2年生の教科書で緒方洪庵を取り上げていたり、教育出版の2年生は後藤新平を取り上げていたりしていました。

もう一つは、今世の中が特にグローバル化だとか色々なことを言っている中で、地方の多様性とか各地方の歴史とか文化を大事にするということがだんだん弱まってきているのではないのか。そういう点では、地方の文化に目を向けて、それに大切に取り組んだ人の話などはいいいというふうに思いました。例えば光村書店の3年は、福岡市の地下鉄の駅のシンボルマーク、これはなかなか実際によくできていて、博多駅だと博多織を想像するような絵柄になっていたりとか、祇園の駅だと山笠を想像するようなシンボルマークだったりになっているのですが、そういうシンボルマークをデザインした西島伊三雄さんという人の話。あるいは光村の2年生は、小豆島でしようゆ蔵の木桶職人復活プロジェクトというのを立ち上げた人の話。こういう人選というか題材というのは非常によいのではないかと思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

○鈴木委員 あかつき教育図書の方では、競泳選手のまさに今オリンピックで出られている池江璃花子さんですとか、実業家の安藤百福さん、それから日々ホームランが気になる野球選手の大谷翔平さんなどが取り上げられておりまして、日本教科書の巻末の付録の方には新紙幣の肖像画になっている渋沢栄一さんですとか、津田梅子さん、北里柴三郎さんも載っていると思います。

○教育長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょうか。

今、皆さんからお話がありましたように、人物については、各社とも工夫をされていて、多岐にわたる領域から選出をされていることが分かりました。これまでのご意見を伺いまして、港区としては、先程もお話がありました、道徳ノートがあり二次元コードでのコンテンツも充実している日本文教出版を推薦する方が多いように思われます。特別の教科道徳の教科書につきましては日本文教出版でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○教育長 ご異議がないようですので、特別の教科道徳につきましては日本文教出版に決定をいたしました。

それでは、全ての教科書の採択が終わりましたので、ここで改めて確認をいたします。令和7年度区立中学校で使用する教科書については、国語が光村図書、書写が東京書籍、地理が帝国書院、歴史が東京書籍、公民が東京書籍、地図が帝国書院、数学が東京書籍、理科が啓林館、音楽（一般）が教育芸術社、音楽（器楽）が教育芸術社、美術が光村図書、保健体育が大修館、技術が東京書籍、家庭が東京書籍、外国語が東京書籍、道徳が日本文教出版。以上でございます。

それでは、改めて採決に入ります。議案第54号について、前述のとおり可決することにご異議はございませんでしょうか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、議案第54号については前述のとおり可決することに決定いたしました。

2 令和7年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 次に議案第55号「令和7年度区立小学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」説明をお願いいたします。

○教育指導担当課長 特別支援学級では、小中学校とも、区で採択されました教科書並びに文部科学省が著作しております、こちらでは星本と言われるもの、さらに市場で一般に市販されている一般図書と呼ばれているものの中から、児童の実態に応じて選ぶということになります。その中で、法律といたしましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定によりまして、教育委員会が毎年採択するものとなっております。

令和7年度使用一般図書につきましては、特別支援学級設置校長より、教科用図書として使用するのに適している記載のこれらのものにつきまして、使いたい、また使わせたいと思っている子どもがいるという調査結果がありました。これらの採択について、ご審議の程、よろしくお願いいたします。

○教育長 ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 特別学級の個々の生徒の現状におきましては、現場の先生方が一番よく分かっている訳ですから、その現場の先生方と校長先生が推薦した図書ですので、これを承認してよろしいのではないのでしょうか。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにご意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは採決に入ります。議案第55号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、議案第55号については原案どおり可決することに決定いたしました。

3 令和7年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について

○教育長 次に議案第56号「令和7年度区立中学校特別支援学級で使用する教科用図書（一般図書）の採択について」事務局から説明をお願いします。

○教育指導担当課長 採択につきましては、先程と同様ということになります。中学校の特別支援学級設置校長たちからは、提案があります一般図書につきましても同様に使用したい旨の意見が上がっております。これらの採択について、ご審議よろしくをお願いいたします。

○教育長 ただいまの説明に対して、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。

○田谷委員 小学校の場合と同様に、やはり現場の先生が現場の事情をよく御存じだと思います。現場の先生並びに校長先生からのご推薦ですので、そのまま承認するのがよいのではないかと考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにご意見等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは採決に入ります。議案第56号について原案どおり可決することにご異議ございませんか。

（異議なし）

○教育長 ご異議がないようですので、議案第56号については議案どおり可決することに決定をいたしました。

本日予定している案件は全て終了しましたが、委員または説明員の皆さんから、その他、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

「閉会」

○教育長 なければ、これをもちまして閉会といたします。

次回は臨時会を8月26日月曜日、午前に開催を予定しております。よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。

会議録署名人

港区教育委員会教育長 浦田 幹男

港区教育委員会委員 中村 博